

安息日聖書教科

2025

1月-3月



パート1

ヨハネによる福音 からの教訓

Vol. 101 No.1

2025年1月-3月

目次

| | |
|-------------------|----|
| 1. ヨハネによる福音 | 5 |
| 2. 神の小羊 | 10 |
| 3. カナの婚礼 | 15 |
| 4. 宮におけるイエス | 20 |
| 5. イエスとニコデモ | 26 |
| 6. 聖霊の働き | 31 |
| 7. イエスとバプテスマのヨハネ | 36 |
| 8. イエスとサマリヤの女 | 41 |
| 9. 伝道者の誕生 | 46 |
| 10. イエスと役人の息子 | 52 |
| 11. イエスとベテスダの中風患者 | 57 |
| 12. 子の権威 | 62 |
| 13. イエスが群衆を養う | 67 |

セブンスデーアドベンチス
ト改革運動世界総会安息
日学校部 (P.O.Box 7240
Roanoke, Virginia 24019-
0240, U.S.A)

安息日聖書教科
Vol.101, No.1

編集&発行:
S D A改革運動日本ミッション

〒368 - 0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607 - 1

TEL : (0494) 22-0465

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
sdarm.shomaru@gmail.
com

イラスト : Sermonview on the
front cover; Map Resources
on pp. 4, 46, 72.

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

まえがき

今年、わたしたちは4期をかけてヨハネによる福音を学んでいきます。第四番目の福音書の著者は、慎みにより自分がだれであるかも告げず、また最初にイエスに従った二人の弟子のうちの一であることも(ヨハネ1:37)、言及していません。むしろ、「もうひとりの弟子」、「この弟子」、「愛弟子」、「イエスの愛しておられた弟子」、「これらの事についてあかしをし…たのは、この弟子」と遠回しに言及しています(ヨハネ18:15; 19:26; 21:20, 23, 24)。ヨハネの名は省略されている一方で、他の著名な弟子たちは名をもってあげられていることから、この福音の著者はヨハネであることが示唆されているように見受けられます。

預言の霊によれば、第四番目の福音書の著者は「イエスの愛しておられた弟子」ヨハネです。彼は、変貌の山でキリストの栄光を、またイエスが捕らえられる直前に園での苦悩を目撃した3人の弟子のうちの一でした。彼の生涯は、神の御力が「雷の子」をどのように愛する気質と深い霊的な洞察力を持つ人へ完全に変わることができるのかを示す顕著な模範です。

「ヨハネは、ぶどうのつるが堂々とした柱にからむように、キリストにぴったりとついて離れなかった。主のために彼は法廷の危険を物としなかつたし、十字架を離れずにいた。またキリストがよみがえられたという知らせに、すぐさま墓へ急ぎ、その熱意においては性急なペテロにさえもまさっていた。

「ヨハネの生活と品性にあらわれていたキリストへのひたむきな愛と無私の献身は、キリスト教会に口で言いあらわせない価値のある教訓を与えている。ヨハネは、のちの経験にあらわれているような美しい品性を生まれつき持っていたのではなかった。彼には生まれつきのひどい欠点があった。高慢で、身勝手に、名誉欲が強かったばかりでなく、激しい性質で、侮辱されると憤慨した。彼とその兄弟たちは「雷の子」と呼ばれていた。短気、復讐心、批判的精神といったようなものがすべてこの愛された弟子の中にあつた。しかしこうしたすべてのものの下に、天来の教師イエスは、熱心で、誠実で、愛すべき心を認められた。イエスは彼の身勝手を譴責され、彼の野心をくじいて、信仰を試めされた。しかしイエスは、ヨハネの魂が求めていたもの、すなわち、聖潔の美、愛の改変力を彼にお示しになった。」(患難から栄光へ下巻242)

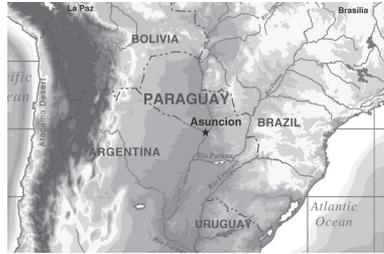
すべての古代の著者たちは、ヨハネによる福音書が書かれたのは、エペソでおよそ西暦90年か少し前だと告げています。煮えたぎる油の大釜に入れられ、奇跡的な方法で死をまぬかれ、その後パトモス島へ追放されました(黙示録1:9)。そこで彼は黙示録を記しました。ネルバが即位することにより(西暦96年)、彼はエペソへ戻ることができました。そこで、彼はタラジャンの治世の間(西暦98-117年)に死ぬまで住み続けたと信じられています。

キリストの御霊が、今期わたしたちの研究を導いて下さり、わたしたちの心に触れて、このお方の愛に答えますように!

世界総会安息日学校支部

第一安息日献金 パラグアイの多目的健康教育センター

パラグアイ共和国は南米の内陸国で、アルゼンチン、ボリビア、ブラジルと国境を接しています。人口は約 610 万人で、そのうち 96.1% がキリスト教を信仰しています（カトリックが 88.3%、その他のキリスト教が 7.8%）。2.6% は無宗教で、残りは他の宗教を信仰しているか、宗教を特定していません。国の経済は主に農業（特に大豆）に依存しており、過去 50 年間でパラグアイは大規模な水力発電産業も育成してきました。



SDA 改革運動の最初のメンバーは 1940 年代にハンガリーからこの地にやって来て、1950 年代には聖書宣教師の活動を通じて、その後 1970 年代には医事伝道活動を通じて活動がさらに拡大しました。現在、主要都市には素晴らしい忠実なメンバーのグループがいます。

わたしたちは長年、首都アスンシチで自然健康センターを運営し、多くの魂に福音を伝え、神の残りの民の生活様式を教えてきました。神とわたしたちの多くの学問分野に関連のある専門家チームの助けにより、クリニックを復活させたいと願っています。ただし、今度は都市での伝道拠点として機能し、神の命令を果たすために田舎にまで拡張したいと考えています。「都市から出なさい。療養所、学校、オフィスは人口密集地から離れた場所に設立しなさい。」（エレテッド・メッセージ 2 卷 357）

この展望を念頭に置いて、わたしたちは首都から約 66 キロ（41 マイル）離れたパラグアリ県の印象的な田舎の土地を入手しました。すでに敷地内に礼拝堂と牧師館がありますが、これはほんの始まりにすぎません。目標は、基本的な健康センター、教会学校、礼拝堂、そして自立した健康食品企業の開発施設を備えた多機能センターを設立することです。

この目標の実現にご協力くださるよう、世界中の兄弟姉妹の皆様へ、惜しみない献金をお願い申し上げます。皆様のご協力は、プロジェクト完了に必要な最後の段階に新たな推進力を与えるでしょう。わたしたちは神の力と素晴らしい恵みに信頼を寄せており、世界中のコミュニティが神のぶどう園のこの部分で伝道活動を強化し拡大する努力を主が祝福してくださることを確信しています。

パラグアイ・フィールドから皆さんの兄弟姉妹より

ヨハネによる福音

暗唱聖句：「そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまことに満ちていた。」(ヨハネによる福音書 1:14)

推奨文献： 人類のあけぼの上巻 17-36, 105-112

「キリストは永遠の昔から御父と一つであられ、人としての性質をご自身におとりになった時も、このお方は神と一つであられた。」(セクレット・メッセージ 1巻 228)

1. イエス、御父と一つ

日/12月29日

a. 受肉の前のイエスについて神のみ言葉は何と言っていますか(ヨハネによる福音書 1:1, 2)。

「永遠の昔から、主イエス・キリストは天父と一つであられた。キリストは、『神のみかたち』、神の偉大さと尊厳のみかたち、『神の栄光のかがやき』であられた。キリストがこの世にこられたのは、この栄光をあらわすためであった。神の愛の光をあらわすために、すなわち『われらと共にいます』神となるために、キリストは、罪のために暗くなったこの地上においでになった。」(各時代の希望上巻 1)

「言であり、神のひとり子であったキリストは、永遠の父と一つ、すなわち、その性質、品性、目的が一つであって、神のあらゆる計画と目的に参加できる唯一のおかたであった。」(人類のあけぼの上巻 2)

b. イエスは御父と天使たちからどのようにみなされていましたか(詩篇 45:6; イザヤ書 9:6; ヘブル人への手紙 1:3, 6-8)。

「天使たちは、神に仕える者で、神のみ前から流れ出る光で輝き、みこころを果たすためにすみやかに飛ぶことのできる翼が与えられているのである。しかし、神の受膏者、『神の本質の真の姿』、『神の栄光の輝き』であられるみ子は、『その力ある言葉をもって万物を保っておられ』て、それらをすべて支配しておられる(ヘブル 1:3)。」(同上 3)

- a. すべての物をお造りになったのはどなたですか（ヨハネによる福音書 1:3, 10; コロサイ人への手紙 1:15-17; ヘブル人への手紙 1:2）。

「天をのべ、地の基をおかれたのはキリストであった。もろもろの世界を空間にかけ、野の花をよそおわれたのはキリストのみ手であった。神は『そのみちからによって、もろもろの山を堅く立たせられる。』『海は主のもの、主はこれを作られた』（詩篇 65:6, 95:5）。地を美しさでみだし、空中を歌でみだされたのはキリストであった。地と空中と空のすべてのものの上に、キリストは天父の愛のこぼれをお書きになった。」（各時代の希望上巻 2）

- b. 世界と宇宙がどのように創造されたかを説明しなさい（詩篇 33:6, 9; 104:1-6）。

「神がお語りになると、その言葉は自然界における創造の業をした。神の創造はこのお方の喜びを満たすため直ちに成し遂げられる手段の貯蔵庫にすぎない。」（SDA バイブル・コメント [E・G・コト・コト] I 巻 1081）

「地球が創造主のみ手によって造られたとき、それは非常に美しかった。その表面には、山や丘や野原があって変化に富み、きれいな川や美しい湖水が、ここかしこにあった。しかし、山や丘は、現在のように、けわしく、荒けずりでなく、恐ろしい絶壁や裂け目などはなかった。地球の骨組みをなす岩かどは、肥沃な土地におおわれて、いたるところで、緑の草木が繁茂していた。気味の悪い沼や、不毛のさばくはどこにもなかった。どちらを

向いても、優雅な灌木や優美な花が視線をとらえた。丘は、今はえているどんな木よりも堂々とした樹木で飾られていた。空気は、臭気で汚染されておらず、清らかで健康的であった。回りのけしきは、どんなりつばな宮殿の飾り立てられた庭園よりも、はるかに美しかった。天使の群れは、その光景をながめて感激し、神のすばらしいみわざに歓喜の声をあげた。」人類のあけぼの上巻 17, 18）

「聖書は、地球が長い時代を経てこんとん状態から徐々に進化したということ認めていない。聖書の記録は、創造週の日一日が、その後のすべての一日と同様に、夕があり朝があったことを明らかにしている。一日の終わりに、創造主のその日の働きの結果がしるされている。」（同上 30）

- a. すべての命と光の創始者はどなたですか、またそれはわたしたちにどのような恩恵をもたらしますか(ヨハネによる福音書 1:4-9; 使徒行伝 17:28)。

「各時代にわたって、神のみ言葉を人類に宣告した人々を通して語られたのはキリストであった。この世で最も偉大な、また最も高貴な魂を持った人々にみられるあらゆる美德は、キリストの反映である。」(教育 72)

「キリストは、『すべての人を照らすまことの光』である。人はみなキリストを通して生命を持っているが、同じようにどんな魂もキリストを通して幾らかの天の光が与えられる。」(同上 21)

「神の能力は、いまもなお、お造りになった物をささえるために働いている。脈搏がうち、呼吸がつづけられるのは、一度動きはじめた機械組織が、その固有のエネルギーによって活動をつづけるせいではない。呼吸の一つ一つ、心臓の鼓動の一つ一つは、われわれの生命と活動と存在の根源である神の守りの証拠である。小さな昆虫から人間にいたるまで、ありとあらゆる生物は、日々に、神の摂理によって 生きているのである。…自然のすべてのものの中にあつて働き、万物をささえている偉大な力は、一部の科学者たちが主張するような、単なる普遍的な原則つまり活動エネルギーではない。神は霊であるが、しかし人間は神のみかたちにかたどってつくられたのであるから、神は個性をそなえたおかたである。神は、個性をそなえたおかたとしてご自身をみ子イエス・キリストの中に現わされた。」(同上 141-143)

- b. イエスはご自身についてなんとおられますか(ヨハネによる福音書 9:5; 8:12; 3:19; 12:46)。

『わたしは世の光である』というみことばによって、イエスはご自分がメシヤであることを宣言された。年老いたシメオンは、……宮の中で、イエスのことを『異邦人を照す啓示の光、み民イスラエルの栄光』であると言った(ルカ 2:32.)。シメオンは、このことばによって、どんなイスラエル人もよく知っている一つの預言をイエスに適用していた。聖霊は、預言者イザヤを通してこう宣言された、『あなたがわがしもべとなって、ヤコブのもろもろの部族をおこし、イスラエルのうちの残った者を帰らせることは、いとも軽い事である。わたしはあなたを、もろもろの国びとの光となして、わが救を地の果にまでいたらせよう』(イザヤ書 49:6)。この預言はメシヤについて言われたものと一般に理解されていたので、イエスが「わたしは世の光である」と言われたとき、人々は、イエスがご自分のことを約束のメシヤであると主張しておられるのだとみとめることができた。」(各時代の希望中巻 253)

- a. イザヤはキリストの名前について何を預言しましたか(イザヤ書 7:14)。この預言はいつ成就しましたか(マタイによる福音書 1:22, 23)。

「イエスがわれわれとともに住むためにおいでになったので、われわれは、神がわれわれの試練をよく知り、われわれの悲しみに同情してくださるということがわかる。アダムのむすこ娘はみな創造主が罪人の友であることをさとることができる。なぜなら、救い主の地上生活にあらわされた恵みの教理の一つ一つに、よろこびの約束の一つ一つに、愛の行為の一つ一つに、きよい美しさの一つ一つに、われわれは神がわれらとともにいますことをみとめるからである。」(各時代の希望上巻7)

- b. 墮落したわたしたちに手を差し伸べるためにイエスは何をなさいましたか(ヨハネによる福音書 1:14; ピリピ人への手紙 2:5-8; ヘブル人への手紙 2:14-18)。

「キリストは、わたしたちの性質をとって、わたしたちの間にお住みになった。それは、キリストが持つておられた神の性質と命とを人間が知ることができるためであった。神性が、人性の中に啓示されたのである。目に見えない栄光が、人間の姿の中にあらわされた。人間は、未知のものを、すでに知っているものによって学ぶのである。天のものが、地上のものによって啓示された。神が、人間のかたちの中にあらわされた。」(キリストの実物教訓1)

「神の御子は暗闇の権力によってすべての歩みにおいて攻撃された。バプテスマの後、このお方は御霊に導かれて荒野に行き、四十日間誘惑にあわれた。…もしこのお方がわたしたちの性質にあずかっておられなかったなら、人が誘惑されてきたように誘惑されることはなかったはずである。もしこのお方が誘惑に負けることが可能ではなかったなら、このお方はわたしたちの助け手とはなり得なかった。キリストが人として人のために戦いをなすために来られたことは厳粛な現実であった。このお方の誘惑と勝利は人類が模範に倣い、神の性質にあずかる者とならなくてはならないことをわたしたちに語っている。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5巻 1082)

「墮落した人類の子として栄光を覆い隠しておくこと、これは命の君が自らに課された最も厳しい訓練であった。こうしてこのお方はサタンと力比べをなさった。天から追放された者が、天の宮廷で彼が妬んだお方を支配下に置こうと必死で戦った。これはなんと凄まじい戦いであったことか。まさに言語に絶するほどであった。しかし近い将来、それは小羊の血と彼らの証の言葉によって勝利した人たちによって理解されるであろう。」(同上 1081, 1082)

- a. 人類のために何をなさるためにイエスは来られたのですか (ヨハネによる福音書 3:16, 17; 1:12; ルカによる福音書 19:10)。

「当然キリストが受けられるべきとり扱いをわれわれが受けられるように、キリストはわれわれが当然受けるべきとり扱いを受けられた。われわれのものではなかったキリストの義によってわれわれが義とされるように、キリストはご自分のものではなかったわれわれの罪の宣告を受けられた。キリストのものであるいのちをわれわれが受けられるように、キリストはわれわれのものである死を受けられた。『その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ』(イザヤ書 53:5)。(各時代の希望上巻 11)

- b. わたしたちはキリストの犠牲によってどのように回復されるのでしょうか (ガラテヤ人への手紙 4:5-7; ヘブル人への手紙 2:10)。

「キリストは十分で完全な犠牲をささげられた。それはこのお方の律法を犯したことについて神に対して悔い改めを示し、わたしたちの主イエス・キリストへの信仰を表すすべてのアダムの息子娘を救うのに十分な犠牲であった。…キリストはわたしたちの救いの将であり、ご自分の苦しみと犠牲によって墮落した人類に対するこのお方のみ旨に宿る愛を、もし彼らが正しく表そうとするならば、注意深い祈りと、忍耐強い努力が必要であるということをご自分に従うすべての者に模範としてお与えになった。」(教会への証 2 巻 664)

「神は従順なご自分の子らを愛される。神は不服従な者のためにではなく、罪によって汚され腐敗した世にあつて試みられ、試練にあつてきたご自分の子らのために王国を備えられた。従順な子供としてわたしたちは神との親類関係という特権を持っている。『子である以上、また神による相続人である』と神は言われる。朽ちないものを相続する相続人…。キリストと神の民とは一つである。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1077)

個人的な復習問題

1. イエスは永遠の昔からどの性質を持っておられましたか。
2. 天を広げ、地の基を据えたのはどなたでしたか。
3. すべての真の光はどなたから発せられるのでしょうか。
4. イザヤ書 7:14 においてイエスはなんと呼ばれていますか。
5. イエスはわたしたち人間の性質を引き受けて何になられましたか。

神の小羊

暗唱聖句：「彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、口を開かなかった。ほふり場にひかれて行く小羊のように、また毛を切る者の前に黙っている羊のように、口を開かなかった。(イザヤ書 53:7)

推奨文献： 各時代の希望上巻 147-164

悔い改める罪人に、『世の罪を取り除く、神の小羊』に目をそそがせなさい。」(信仰によってわたしは生きる 107)

1.

バプテスマのヨハネの証

日/1月5日

- a. バプテスマのヨハネはイエスに関してなんと宣言しましたか(ヨハネによる福音書 1:15-18)。
- b. ヨハネは宗教指導者たちにどのように自分自身を明らかにしましたか(ヨハネによる福音書 1:19-23)。どのような預言を彼は成就しましたか、またわたしたちはそれとどのように関係するでしょうか(イザヤ書 40:3-5)。

「この地球歴史のあらゆる段階において、神はご自分の働きを推し進めるためにご自分の代理人を持っておられ、それはこのお方が指定された方法でなされなければならない。バプテスマのヨハネには主の道を備えるという、特別な働きがあり、そのために生まれそのために任命されたのである。…

[彼の荒野での伝道は] 最も顕著な文字通りの預言の成就であった。」(サザン・ウォッチマン 1905年3月21日)

「主は[バプテスマのヨハネに] ご自分のメッセージをお与えになった。彼が出て行って祭司や役人たちに行き、このメッセージを伝えても良いか、と尋ねたであろうか。否、神が彼を彼らから遠ざけられたのは彼が彼らの精神や教えに影響されないためであった。彼は荒野で呼ばれる者の声であった[イザヤ 40:3-5 引用]。これこそわたしたちの民に伝えられるべきメッセージである。わたしたちは時の終わりに近づいており、そのメッセージは王の大路を清めよ、石を集め、旗を高く掲げよ、である。今は平和だ、無事だと叫ぶ時ではない。」(エレクテッド・メッセージ 1巻 410)

- a. イエスがバプテスマを受けるためにヨハネのもとに来た時、ヨハネはどのようにこのお方を確認し、どのようにこのお方の公な働きを証しましたか（ヨハネによる福音書 1:29, 34）これはどの預言を成就したのでしょうか（イザヤ書 53:4-7）。

「キリストは、今日、あがない主であると同様に、世の始めからのあがない主であられたのである。イエスが、人性によって神性をおおってこの世に来られる以前に、福音の使命はすでに、アダム、セツ、エノク、メトセラ、ノアによって伝えられたのである。アブラハムはカナンで、ロトはソドムで使命を伝えた。こうして、どの時代においても、忠実な使者たちは、きたるべきキリストのことを宣べた。ユダヤの儀式制度は、キリストご自身がお定めになったものであった。キリストこそユダヤ人の犠牲制度の基礎で、彼らの全宗教制度の偉大な実体である。犠牲がささげられたときに流された血は、神の小羊の犠牲をさし示していた。典型的ささげ物は、すべて、キリストによって成就した。」（キリストの実物教訓 104）

- b. ヨハネはどのように自分の弟子たちにイエスを紹介しましたか（ヨハネによる福音書 1:35, 36）。彼の言葉は彼らにどのような影響を与えましたか、また次に彼の人生に何が起こりましたか（ヨハネによる福音書 1:37）。

「〔キリストのバプテスマ後〕次の日、二人の弟子たちがそばに立っていた時、ヨハネはまたイエスを群衆の中にみいだした。ふたたび預言者の顔は目に見えない神の栄光に照され、彼は、『見よ、神の小羊』と叫んだ。このことばは弟子たちの心を感動させた。彼らはそのことばを十分に理解しなかった。ヨハネがイエスのことを『神の小羊』と呼んだその名にどういう意味があるのか、ヨハネ自身も説明したことがなかった。弟子たちは、ヨハネを残したまま、イエスを求めに行った。」（各時代の希望上巻 156）

「ヨハネは自分の弟子たちに、イエスが約束のメシヤ、世の救い主であると知らせた。ヨハネの働きが終わりに近づいたとき、彼は弟子たちに、イエスを大教師として仰いで、これに従うように教えた。ヨハネの一生は、悲しみと犠牲に満ちていた。彼はキリストの初臨を先ぶれたが、キリストの奇跡を目に見、キリストによってあらわされる力を受けることはゆるされなかった。イエスが教師として立ちたもうときには、自分は死なねばならないことがヨハネにはわかっていた。ヨハネの声は、荒野よりほかにはほとんどきかれなかった。彼の一生は孤独だった。彼は、父親の家庭で家族との交わりを楽しむことに執着しないで、使命を果たすために家族を離れた。」（初代文集 267, 268）

- a. 最初の弟子はだれでしたか（マタイによる福音書 4:18, 21）。彼らはキリストのどのような関心を表しましたか。またこのお方と最初に会ったのはどれくらいの間でしたか（ヨハネによる福音書 1:38, 39）。

「[イエスについて行った] 二人の中の一人は、シモンの兄弟アンデレだった。もう一人は伝道者ヨハネだった。この二人がキリストの最初の弟子だった。おさえきれない衝動にうごかされて、彼らは、イエスと語りたくて熱望しながらも、おそれの思いに沈黙したまま、『この方がメシヤだろうか』という重大な意味をもった思いにふけりながら、イエスのあとをついて行った。

イエスは弟子たちが自分のあとからついてきていることをご存じだった。彼らはイエスの伝道の初穂だったので、これらの魂がご自分の恵みに応じたとき、この天来の教師の心にはよろこびがわいた。だがイエスは、ふりかえって、『何か願いがあるのか』とおたずねになっただけだった。イエスは彼らがひき返そうと、あるいは彼らの望みを語ろうと、自由にさせようとお思いになった。

一つの目的だけを彼らは意識していた。一つの存在が彼らの思いを占めた。彼らは、『ラビ…（あなたは）どこにおとまりなのですか』と叫んだ。道ばたでの短い会見では、彼らの熱望しているものは得られないのであった。彼らはイエスとだけになり、その足下にすわり、みことばをききたいと望んだ…

もしヨハネとアンデレが祭司たちや役人たちのように不信な気持をいだいていたら、彼らはイエスの足下に学ぶ者とはならなかったであろう。彼らは批判者としてイエスのところへやってきて、そのみことばを批判したであろう。多くの者はこのようにして最もとうとい機会に対して戸をとぎす。しかしこの最初の弟子たちはそうはしなかった。彼らはバプテスマのヨハネの説教のうちにあった聖霊の召しに応じていた。いま彼らは天来の教師のみ声をみとめた。彼らにとってイエスのみことばは新鮮さと真理と美しさに満ちていた。天来の光が旧約聖書の教えを照した。真理の多方面のテーマが新しい光の中にはっきりとうつし出された。」（各時代の希望上巻 156, 157）

- b. 最初の弟子たちはイエスに出会って後すぐに何をしましたか（ヨハネによる福音書 1:41, 42）。

「アンデレは自分の心を満たしたよろこびをわけ与えようとつとめた。彼は、兄弟のシモンをさがしに行つて『わたしたちはメシヤ（訳せばキリスト）にいま出会った』と叫んだ（ヨハネ 1:41）。シモンは次の招きを待たなかった。彼もまたバプテスマのヨハネの説教を聞いていたので、救い主のもとへ急いだ。」（同上 158）

- a. イエスが次の弟子をご自分に従ってくるように召された時、何が起こったかを説明しなさい(ヨハネによる福音書 1:43-45)。

「ピリポはその命令に従い、その場で彼もまたキリストの働き人となった。ピリポはナタナエルを呼んだ。」(各時代の希望上巻 158)

- b. キリストがナタナエルのためらいを克服なされた方法からわたしたちは何を学ぶことができますか(ヨハネによる福音書 1:46-49)。

「ナタナエルはイエスを見た時失望した。苦勞と貧乏のしるしのあらわれているこの人がほんとうにメシヤだろうか。それでもナタナエルはイエスをこぼむ決心ができなかった。ヨハネのことが彼の心に確信を生じさせていたからである。

ピリポがナタナエルを呼んだ時、ナタナエルは、ヨハネの宣言とメシヤに関する預言について瞑想するために静かな森にひっこんでいた。もしヨハネによって宣言されたおかたが救済者なら、そのことを示していただきたいと彼は祈った。すると聖霊が彼の上にくんだり、神はその民を顧み、彼らのために救いの角をお立てになったのだという確信が与えられた…

イエスは答えて言われた、『ピリポがあなたを呼ぶ前に、わたしはあなたが、いちじくの木の下にいるのを見た』。

それで十分だった。いちじくの木の下でただひとり祈っていたナタナエルに証拠を示された聖霊が、こんどはイエスのみことばを通して彼に語られた。疑いと、いくらか偏見にとらわれながらも、ナタナエルは真理を求めるまじめな願いをもってキリストのところへきたのだが、いまその願いがかなえられた。彼の信仰は、彼をイエスのところへ連れていったピリポの信仰にまさった。彼は答えて、『先生、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です』と言った(ヨハネ 1:49)。

もしナタナエルがラビの指導を信頼していたら、彼は決してイエスをみいださなかったであろう。彼は自分で見、自分で判断して、弟子となった。今日偏見にとらわれて恵みから遠ざかっている多くの人々の場合も同じである。もし彼らがきて見させたら、その結果はどんなに異なったものになるだろう。

人間の権威による指導にたよっているかぎり、だれも救いの知識である真理に到達することができない。ナタナエルのように、われわれは神のみことばを自分で研究し、聖霊の光を求めて祈る必要がある。いちじくの木の下でのナタナエルをごらんになったおかたは、かくれた祈りの場所にいるわれわれをごらんになる。光の国の天使たちは、へりくだって天のみちびきを求める者の近くにいる。」(同上 158-161)

- a. キリストは何をナタナエルに約束なさいましたか、それはなぜですか (ヨハネによる福音書 1:50, 51)。

「[ヨハネ 1:50, 51 引用]ここでキリストは事実上こう言っておられるのである。すなわち、ヨルダン川の岸で天が開けて、みたまが、はどのようにわたしの上にくだった。その光景はわたしが神の子である証拠にすぎなかった。もしあなたがたがわたしを神の子として信ずるなら、あなたがたの信仰は活発になるであろう。あなたがたは天が開いて決してとじられないのを見せられるであろう。わたしがあなたがたに天を開いたのである。神の天使たちは、困っている人や苦しんでいる人の祈りをたずさえて天の父のみもとに昇り、祝福と望みと勇気と助けといのちとをたずさえて人の子らのもとにくだっているのである。」(各時代の希望上巻 163, 164)

- b. わたしたちがキリストを受け入れた時何が起こりますか (ヨハネによる福音書 4:14; ヨハネの黙示録 22:17)。

「人が真理を愛してこれを受け入れるとき、それはその人の信念のある態度と声の調子にあらわれる。彼は他の人々がキリストを知ることによって彼とまじわることができるように、いのちのみことばについて自分が見、聞き、手でさわったところを知らせる。祭壇の上から取った燃えている炭にふれた唇から出る彼のあかしは、信ずる者の心にとって真理であり、品性にきよめが行なわれる。…」

神は、罪人を救うのにわれわれの助けがなくても、目的を達することがおできになったのである。だがわれわれがキリストのような品性を発達させるためには、キリストの働きにあずからねばならない。キリストのよろこびすなわちキリストの犠牲によってあがなわれた魂を見るよろこびにはいるためには、われわれは彼らをあがなうキリストの働きにあずからねばならない。」(各時代の希望上巻 162, 163)

個人的な復習問題

金/1月10日

1. バプテスマのヨハネはなぜ荒野に召されたのでしょうか。
2. どのようにバプテスマのヨハネの生活様式をわたしたち自身のものとすべきですか。
3. イエスにお会いした時のヨハネとアンデレからわたしたちは何を学ぶことができますか。
4. ナタナエルの初めの宣言からわたしたちはどのように靈感を受けることができますか。
5. キリストへのわたしの信仰が本物であるかどうかどうであるかが何によって明らかになりますか。

カナの婚礼

暗唱聖句:「このかたが、あなたがたに言いつけることは、なんでもして下さい。」(ヨハネによる福音書 2:5 (下句))

推奨文献: 各時代の希望上巻 165-179;
青年への使命 405-420

「イエスは人類と全く思いを一つにすることによって改革の働きをお始めになった。」(各時代の希望上巻 175)

1. キリストのお働きの開始

日/1月12日

a. イエスはこの地上でご自分の働きをどこで始められましたか(ヨハネによる福音書 2:1, 2)。

「イエスは、エルサレムのサンヒドリンの前で何か偉大な働きをすることによってその公生涯をお始めにならなかった。ガリラヤの小さな村のある家族的な集りで、結婚の宴によろこびをまし加えることにイエスの力がそそがれた。こうしてイエスは人々と思いを一つにし、人々の幸福に役立ちたいという願いを示された。イエスは、試みの荒野で、ご自分から苦悩のさかずきをお飲みになった。そして、人々に祝福のさかずきを与え、ご自分の祝福によって人間生活のきずなを聖なるものにするために出ておいでになった。」(各時代の希望上巻 165)

b. 婚礼が終わるよほど前に何が起こりましたか(ヨハネによる福音書 2:3)。

「[マリヤ]は、イエスにご自分が真に神のとういみ子であることを一座の人々に証明していただきたいと心に願った。彼女はイエスが彼らの前で奇跡を行われる機会があればよいと望んだ。

結婚の祝宴は数日間つづけられるのが当時の習慣であった。この時、祝宴がまだ終わらないうちにぶどう酒のたくわえが切れてしまったことがわかった。それがわかると大変な困惑と失望とが生じた。祝宴をぶどう酒なしですませるといことは例のないことで、ぶどう酒がないことは接待の行きとどかない証拠に思われるのだった。」(各時代の希望上巻 167)

- a. キリストの母親は何と言いましたか、またこのお方は何とお答えになりましたか(ヨハネによる福音書 2:3, 4)。

「[ヨハネ 2:4 引用]この答は、われわれにはぶっきらぼうに思えるが、冷淡さや無礼な気持をあらわしているのではない。救い主が母親に語りかけられた形式は、東洋の習慣に従ったものであった。それは尊敬心を示したいと望む相手の人に対して用いられた。キリストの地上生活における行為の一つ一つは、彼ご自身がお与えになったところの、「あなたの父と母を敬え」という戒めに一致していた(出エジプト記 20:12)。十字架の上において、母親に対する最後のやさしい行為として、最も愛する弟子に母親の世話を託された時、イエスはふたたび同じように母親に語りかけられた。婚宴の時でも十字架上でも、声と顔つきと態度にあらわれている愛がイエスのことばの意味を伝えた。」(各時代の希望上巻 168)

- b. キリストの母親は僕たちに何と言いましたか、そしてその言葉は今日のわたしたちにもどのように当てはまりますか(ヨハネによる福音書 2:5)。

「キリストに従う者たちは信仰と兄弟たちへの愛の完成に近づくにつれて真理を宣べ伝える力をますます強める。神はわたしたちの人間の資源では対応できないあらゆる緊急事態に対して神の援助を与えて下さった。このお方は聖霊をお与えになってあらゆる窮地において助けて下さり、わたしたちの希望と確信を強めわたしたちの心を照らし、また心を清めて下さる。このお方はご自分の計画を実行なさるために十分な助けが提供されていることを仰せになっている。わたしはあなたに神に助言を求めることをお勧める。心を込めてこの方を求めなさい。そして『この方があなたがたに言いつけることは何でもしてください。』」(教会への証 6巻 414, 415)

- c. イエスは婚礼で僕に何をどのように言われましたか(ヨハネによる福音書 2:6-8)。

「戸口のそばに六つの大きな石の水がめがあった。イエスは召使いたちにその水がめに水を満たすように言いつけられた。水はいっぱいになった。次にイエスは、ぶどう酒がいますぐ入り用だということで、『さあ、くんで、料理がしらのところに持って行きなさい』と言われた(ヨハネ 2:8)。水のいっぱい満たされた水がめからは、水ではなくてぶどう酒が流れ出た。」(各時代の希望上巻 171)

- a. ぶどう酒が出された時、料理がしらはどのように反応しましたか（ヨハネによる福音書 2:9, 10）。

「料理がしらも一般の客もぶどう酒がきれたことには気がついていなかった。召使いたちが持ってきたぶどう酒をなめてみて、料理がしらはそれがいままで飲んだこともないほどすばらしいぶどう酒で婚宴の初めに出されたぶどう酒とちがったものであることに気がついた。」（各時代の希望上巻 171）

- b. キリストが提供なさったぶどう酒はどのような種類のものでしたか（イザヤ書 65:8）。

「キリストが祝宴にお備えになったぶどう酒、またご自分の血の象徴として弟子たちにお与えになったぶどう酒は、純粹のぶどう汁であった。預言者イザヤが、新しいぶどう酒について、『人がぶどうのふさの中に、ぶどうのしるのあるのを見るならば、それを破るな、その中に祝福があるから』と言う」と言っているのは、このことである（イザヤ書 65:8）。…

主が結婚式の客のために用意された発酵しないぶどう汁は衛生的な清涼飲料水であった。その効果は味覚を健康な食欲に調和させるのであった。」（各時代の希望上巻 173, 174）

- c. 発酵したぶどう酒について聖書は何と言っていますか（箴言 20:1; 23:29-35）。

「旧約聖書の中で、『酒は人をあざける者とし、濃い酒は人をあばれ者とする、これに迷わされる者は無知である』と、イスラエルに警告されたのはキリストであった（箴言 20:1）。だからキリストはご自分からこんな飲み物を与えるようなことはなさらなかった。サタンは理性をくもらせ、霊的知覚を麻痺（まひ）させるような放縱に人を誘惑するが、キリストは下等な性情を征服するように教えておられる。キリストの一生は克己の模範であった。食欲の力をたちぎるために、彼は人間が耐えることのできる最もきびしい試練を、われわれのために受けられた。バプテスマのヨハネに、ぶどう酒や濃い酒を飲まないように指示されたのはキリストであった。同じようにマノアの妻に禁酒を命じられたのもキリストであった。キリストは隣人の口に酒びんをおしつける者の上にわざわざを宣告された。キリストはご自分の教えに矛盾したことをなさらなかった。」（同上 173, 174）

- a. 婚礼の祝宴におけるキリストのご臨在と奇跡によって現代のわたしたちにとって、どのような目的が達成されましたか(ヨハネによる福音書 2:11)。

「キリストはすべての事をご存じであった。このお方は時代をわたしたちの時にまで遡って世界歴史の終わりの社会がどうなるかをご覧になっていた。このお方は何千人もの人々が酒や強い飲み物の使用によって滅びるのをご覧になった。世は徐々に洪水前の状態と同じ状態になっていくのであった。しかし天は危険信号を掲げて、それにより人々が警告を受け入れて自分自身を守るために神と協力できるようにしたのであった。このお方はわたしたちに絶対的な自製の模範を与えて下さり、指示をお与えになった。それに従うならば、わたしたちの子供たちの活力、技能、卓越性を創造し、維持することになるのであった。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1896年4月16日)

- b. キリストがお働きを通して模範として示して下さった活気づける態度の種類を述べなさい(マタイによる福音書 11:29)。

「イエスは人類と全く思いを一つにすることによって改革の働きをお始めになった。彼は神の律法に最高の尊敬を示される一方では、パリサイ人のうわべばかりの敬虔さを責め、人々をしぼりつけている無意味な規則から彼らを解放しようとされた。イエスは、人々を一家族の子供として一つにするために、社会の異なった階級をへだてている壁を打破しようとしておられた。イエスが婚宴の席に出られたことは、こうしたことを達成するための一歩としてくわだてられたのであった。」(各時代の希望上巻 175)

「イエスは、あらゆる種類の放縦を責められたが、しかしその性質は社交的であられた。彼はあらゆる階級の人人のもてなしに応じて、金持の家でも貧乏人の家でも、学者の家でも無知な者の家でも訪問し、彼らの思いを日常一般の問題から霊的な永遠の問題へ高めようとされた。彼は酒色をみとめられず、その行為は世俗的な軽薄の影によってもらされることがなかった。しかし主は無邪気なたのしみの光景によるこびを感じ、自ら出席なさることによって親睦(しんぱく)の集りを是認された。ユダヤ人の結婚式は印象的な光景で、そのよろこびは人の子イエスにとって不快なものではなかった。この婚宴の席につらなることによって、イエスは結婚を天来の制度としてとうとばれた。」(同上 175, 176)

- a. 当時の宗教指導者たちとは対照的にキリストを区別したこのお方の模範から、わたしたちは何を学ぶべきでしょうか（箴言 18:24）。

「キリストの伝道はユダヤ人の長老たちの伝道とくらべていちじるしい相違があった。彼らは言い伝えと形式を尊重するあまり、思想や行動の真の自由をまったく殺してしまっていた。彼らはたえずけがれを恐れて生活した。「汚れた者」との接触をさけるために、彼らは異邦人ばかりでなく、自国民の大多数の者から遠ざかり、彼らに益を与えようとも、彼らの友情を得ようともしなかった。たえずこうした問題に気をとられていたので、彼らの心は小さくなり、生活の軌道は狭くなっていた。彼らの手本によって、民衆のあらゆる階級に独善主義と偏狭心が助長された。」（各時代の希望上巻 174, 175）

- b. すべての社会交流においてわたしたちは何を目的とすべきでしょうか（箴言 11:30）。

「わたしたちは友情深いことばと愉快な顔つきによって、小さな数々のことに注意を払っていることを人に見せることができる。そしてそれはわたしたち自身にまた返ってくるのである。思慮のないクリスチャンは、他人を無視して自分がキリストと一致していないことをあらわす。キリストと一致していて、しかも他人に対して不親切であり、他人の権利を顧慮しないということは有り得ない。

「わたしたちはみなイエスの証人となるべきである。社交的な能力は、キリストの恵みにきよめられて、魂を救い主にみちびくのくに活用されなければならない。わたしたちは自分自身の利害問題に利己的に没頭しているのではなく、わたしたちの祝福と特権とを他人にわけ与えようと願っているのだということを、世の人々に見せよう。わたしたちの宗教はわたしたちを非情にしたり、かこくにしたりしないということを世の人々にわからせよう。キリストをみいだしたと言っている者はみな、キリストが人々を益するために働かれたように奉仕しよう。わたしたちは、クリスチャンは暗い不幸な人たちだというまちがった印象を世の人々に与えるべきではない。」（アドベント・ホーム 487, 488）

個人的な復習問題

金/1月17日

1. カナにおけるキリストの奇跡によって結んだ霊的な実について述べなさい。
2. キリストとその母親との間の関係を述べなさい。
3. なぜ料理がしらは驚きを表しましたか。
4. キリストの血を象徴するのにふさわしい種類のぶどう酒は何ですか。
5. 社交的な集まりにおいて、イエスの模範からわたしたちは何を思い出すべきでしょうか。

宮におけるイエス

暗唱聖句：「しかし、主はその聖なる宮にいます、全地はそのみ前に沈黙せよ。」(ハバクク書 2:20)

推奨文献： 教会への証 5巻 491-500

「教会内は神聖な敬意が払われるべきである。」(教会への証 5巻 494)

1. **汚された宮** 日/1月19日

- a. キリストの公生涯の初め頃にエルサレムの宮で蔓延していた状況を述べなさい (ヨハネによる福音書 2:13, 14)。

「ユダヤ人はだれでもみな『命をあがなう』ために毎年半シケルを納めなければならなかった。……このほかに、多額のお金が任意の献金として持参され、宮の金庫に納められた。外国貨幣はみな聖所のシケルと呼ばれる貨幣に両替しなければならなかった。そしてその貨幣が聖所の奉仕のために受け取られた。金銭の両替は詐欺や強奪の機会となり、それはだんだん恥ずべき商売となって、祭司たちの収入源となっていた。

商人たちは動物を売るのに法外な値段をつけ、そのもうけを祭司や役人たちにわけた。こうして祭司や役人たちは民の犠牲において私腹を肥やした。」(各時代の希望上巻 181)

- b. これは宮の礼拝にどのような影響を与えましたか(エゼキエル書 22:26 (下句))。

「過越節の時には大変な数のいけにえがささげられたので、宮での商売は非常に盛んだった。従ってそれに伴う混雑は、神の聖なる宮というよりもむしろやかましい家畜市場を思わせた。かん高い取り引きの声、牛のもうもう鳴く声などが、貨幣のじゃらじゃらいう音や怒って言い争う声にまじってきこえた。その混乱があまりにひどいために、礼拝者たちはさまたげられ、いと高き神に語りかけられることばは宮をおおう騒音にかき消された。」(同上 181, 182)

- a. 神はご自身の存在を現される場所をどのようにお考えになっておられますか、またシナイ山でのこのお方の最初の指示は何でしたか (出エジプト記 3:1-5; 19:12, 13)。

「主がシナイ山上におくだりになった時、その場所は主のご臨在によってきよめられた。……。このように、神がご臨在をあらわされるところはどこでも、神聖な場所であるという教訓が教えられた。」(各時代の希望上巻 182)

- b. キリストは宮への冒涇に対してどのように応じられましたか (ヨハネによる福音書 2:15, 16)。

「イエスは宮にはいつてこられると、すべての光景をじつとごらんになった。彼は不正な取り引きをごらんになった。血を流さなければ自分たちの罪はゆるされないと考えて困っている貧しい人たちを彼はごらんになった。彼は、神の宮の外庭がけがれた商売の場所にかわっているのをごらんになった。神聖な境内が一つの大きな取引場となっていた。」(同上 183)

「ゆっくり石段をおりながら、イエスは、境内にはいる時に拾われた縄の鞭をふりあげて、取引をしている連中に宮の境内から立ち去るように命じられる。これまでにあらわされたことのない激しさと厳格さをもって、イエスは両替屋のテーブルをひっくり返される。貨幣は高い音を立てて、大理石の歩道に落ちる。だれひとり彼の権威をあえて問題にしようとしな。だれひとり不正なもうけの金を拾い集めようとして立ちどまろうとしな。イエスは彼らを縄の鞭で打ちはなさないが、そのただの鞭が彼の手にあると、燃える剣のように恐ろしいものにみえる。宮の役員たちや、投機をしていた祭司たちや、仲買人たちや家畜商人たちは、イエスの目の前にいると心が責められるので、それからまぬかれない一心で羊や牛といっしょにその場から逃げ出す。」(同上 185)

- c. 宮を清めるというキリストの行為は何を表していましたか (マラキ書 3:1-3)。

「けがれた商売のそうぞうしきにつつまれていたエルサレムの宮の庭は、肉欲やきよくない思いがはいりこんでけがれている心の宮をそのままあらわしていた。宮を世俗の売人、買う人からきよめることによって、イエスは、罪のけがれ、すなわち魂を墮落させる世俗的な望み、利己的な欲望、悪習慣などから心をきよめられるご自分の使命を宣言された。」(同上 186)

- a. 神がご自分の民の間に聖所を建てられた最初のご目的は何でしたか（出エジプト記 25:8）。

「神の住居として建てられたこの宮は、イスラエルと世界のために実物教訓となるように計画されていた。輝く聖なるセラフから人間にいたるまで、すべての被造物が創造主の内住される宮となることが、永遠の昔から神の目的であった。」（各時代の希望上巻 186）

- b. なぜ信徒は神の宮であると言及されているのでしょうか、そしてこの宮の神聖さを保つためにわたしたちはどのように心を尽くすべきですか（コリント人への第一の手紙 3:16, 17; イザヤ書 57:15）。

「罪のために人類は神の宮とならなくなった。人の心は、悪のために暗くなり、けがれたものとなったので、もはや聖なる神の栄光をあらわさなくなった。しかし神のみ子の受肉によって天の神の目的は達成された。神は人類の中にお住みになり、救いの恵みを通して、人の心はふたたび神の宮となる。」（同上）

「もしわたしたちが万物の終わりが迫っていると信じるならば『極力、きよく信心深い行いをしていなければならない』。

真理を真に信じるすべての魂はそれに一致した働きをなすであろう。すべての者が熱心にまた厳粛に、魂をキリストに勝ち取るためにたゆまぬ努力をすることであろう。まず真理が彼ら自身の魂の奥底に植え付けられ、それから彼らはそれを他の人の心にも植え付けたいと求めるのである。あまりにも真理は完全に外庭に隠されている。それを魂の宮の中に持ち込み、心の王座に座らせ、そして生活を支配させなさい。神のみ言葉は研究され、従うべきである。そうすれば心は休息と平安と喜びを見出し、強い願望は天へ向かうであろう。しかし真理が生活から切り離され、外庭に置かれている時、心は神の善という燃える炎で温められることはできない。

イエスの宗教は、多くの者にとって、特定の日、または特定の機会に限定されており、ほかの時にはわきに置かれ無視されている。いつまでも変わらない真理の原則は単に安息日の数時間や、数回の慈善行為のためのものではなく、心にもたらされ、品性を洗練し、聖化するものである。」（教会への証 5 巻 547）

- a. 宮を清めようとするわたしたちの無力な状態について何を認識しなければなりませんか(エレミヤ書 2:22; ヨブ記 14:4)。

「だれも心を占領している悪のかたまりを自力で追い出すことはできない。」(各時代の希望上巻 187)

- b. 清められた心で聖なる神の御前に立つことができるようになる秘訣は何ですか(エゼキエル書 36:25-27; ゼカリヤ書 3:3-5)。

「ヤコブはエサウに対する行為において大きな罪を犯した。だが彼は悔い改めていた。彼の罪とがはゆるされ、その罪はきよめられた。だから彼は神のご臨在のあらわれに耐えることができたのである。しかし人が故意に罪を心に宿していながら神の前に出たとき、その人はかならず滅ぼされた。キリスト再臨のときに、悪人は主イエスの『口の息をもって』殺され、『来臨の輝きによって』滅ぼされる(テサロニケ第二 2:8)。神の栄光の光は、義人にはいのちを与えるが、悪人は滅ぼすのである。

バプテスマのヨハネの時代に、キリストは神の品性をあらわすおかたとして現われようとしておられた。人々はイエスの前に出ると自分の罪が明らかにされるのであった。罪からきよめられたいと願ったときにのみ彼らはイエスとのまじわりにはいることができるのであった。心のきよい者だけがイエスの前に立つことができたのであった。」(各時代の希望上巻 110, 111)

「キリストだけが魂の宮をきよめることがおできになる。しかし彼ははいることを強制なさない。主は昔の宮におはいりになったようには心におはいりにならないで、『見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはい(る)』と言われる(黙示録 3:20)。主は一日だけのためにおはいりになるのではない。『わたしは彼らの間に住み、かつ出入りをするであろう。……彼らはわたしの民となるであろう』と言われる(コリント第二 6:16)。『われわれの不義を足で踏みつけられる。あなたはわれわれのもろもろの罪を海の深みに投げ入れ』られる(ミカ書 7:19)。主のご臨在は、魂が主の聖なる宮となり、『霊なる神のすまい』となるように、その魂を洗いきよめる(エペソ 2:21, 22)。(同上 187)

イエスは天の聖所で奉仕しておられる一方では、いまでもみたまによって地上の教会の奉仕者であられる。」(同上 194)

- a. 神はご自分の民の指導者たちにこのお方の家の神聖さを守る責任をどのように負わせておられますか (ハバクク書 2:20; エゼキエル書 44:23)。

「神の宮の境内は神聖なところとみなされるべきだった。ところがもうけを争うあまり、すべてこうしたことが忘れられていた。

祭司と役人たちは国民に神を代表する者と呼ばれていた。彼らは宮の庭がこのように悪用されているのを改革すべきであった。彼らは民に正直とあわれみの模範を示すべきであった。」(各時代の希望上巻 182)

「神の家に対する崇敬の念がほとんど死滅してしまっているのはあまりに真実である。神聖な物や場所は区別されておらず、聖なるものや高貴なものは評価されていない。…神は古代のご自分の民に、完全で正確な秩序の規則をお与えになった。このお方のご品性が変わられたのであろうか。このお方は諸天の天を治める偉大で力強い神ではないであろうか。神ご自身がヘブル人に与えられた指示を頻繁に読み、わたしたちを照らしている輝かしい真理の光の内に神の家に対する彼らの敬虔さを真似ることは良い事ではないであろうか。」(教会への証 5 巻 495, 496)

- b. キリストの力によって得られる本物の勝利を説明しなさい (マタイによる福音書 5:8; ヨハネの第一の手紙 3:1-3)。

「神の子であると主張するすべての人にわたしはこの偉大な真理を忘れることがないようと呼びかける。それはわたしたちが天へ到達するためにはわたしたちの内に神の御霊が必要であり、わたしたちに不朽の嗣業の権利を与えるためにはわたしたちの外でキリストのみ働きが必要なのである。」(牧師への証 442)

個人的な復習問題

金/1月24日

1. 宮において不正な売買の指導者はだれでしたか。
2. 神の前に出る者はどのような態度を取るべきでしょうか。
3. エルサレムの宮が持っているべきであった霊的な意味を説明しなさい。
4. キリストは宮をお清めになる際に何を宣言なさいましたか。
5. わたしたちの欠陥のある人間の心は、どのようにしてのみ清められますか。

第一安息日献金 世界災害救済

戦争、戦争のうわさ、恐ろしい事故、干ばつ、洪水、ハリケーン、地震、火災、疫病が世界中猛スピードで増加していることは疑いようがありません。これらはすべて、わたしたちが学んでいる聖書の預言の成就です。確かに、これらすべての悲劇の中に、わたしたちは近づいてくる神の足跡をはっきりと見分けることができます。何千人もの人々がこれらの極度の困難に非常に苦しみ、ギレアデの乳香を塗るためにイエス・キリストの使節にさまざまな援助を求めています。

これらの苦境において、世界総会福祉部は、世界中の兄弟である皆さんから送られた献金を通じて、わたしたちの基金から提供される祝福を共有してきました。これらは、第一安息日献金を通じてだけでなく、必要を満たすために個人的に、具体的に送られています。親愛なる兄弟たち、皆さんの献金は、自然災害で家を失った人々の避難所として役立っています。それらは何百もの家族に食糧を提供し、孤児や未亡人を世話し、彼らに生活と援助を与えてきました。これらの献金はまた、両親が種を蒔いて家族を養ったり、小さな事業を始めたりするのにも役立ち、わたしたちの信仰を持つ無数の人々が、そうでなければ不可能だった収入源と仕事を持つことができるようになりました。



この試練の時に、多くの人が感動して主の祭壇に献金を捧げたことを神に感謝します。奉仕を受けている人々を代表して、わたしたちはあなたに深く感謝します！

しかし、必要はなくなることはありません。逆に、毎日増えています。ですから、あなたの寛大さは大いに役立ちます。

「キリストの十字架は、祝福された救い主に従うすべての人々の慈悲に訴える。そこに示されている原則は、与えなさい、与えなさいである。これが実際の慈悲と善行で実行されることこそ、クリスチャン生活の真の実である。」(管理職への勧告 14)

今日、第一安息日に特別な献金を捧げる際は、神を敬うために、どうぞ最善を尽くしてください。少額でも多額でも、だれもが最善を尽くすことができます。この共有された愛の総計から、わたしたちは世界中の兄弟たちに祝福を分配し続けます。「困窮している人に施しをする人は彼自身がそれ以上に祝福される」(同上 13)。神が皆さんを大いに祝福してくださいように！

世界総会福祉部

イエスとニコデモ

暗唱聖句：「イエスは答えて言われた、『よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない。』」(ヨハネによる福音書 3:3)

推奨文献： キリストへの道 88-103

「流れが清くなるには、心の泉がきよめられなければならない。自分で律法を守る行為によって天国にはいろいろとする者は不可能なことを試みているのである。」(各時代の希望上巻 201)

1. 著名な人物がイエスを探し求める

日/1月26日

- a. ニコデモとはだれでしたか、また人々の目には彼はどのように見られていましたか (ヨハネによる福音書 3:1, 10)。

「ニコデモはユダヤ国民の中で高い信任の地位を占めていた。彼は高い教育を受け、並々ならぬ才能を持ち、また国民議会の名誉ある議員であった。……彼は金持ちで、学問があり、尊敬されていたが、ふしぎにこのいやしいナザレ人に心をひかれていた。」(各時代の希望上巻 197)

「彼は厳格なパリサイ人で、自分の善行を誇っていた。彼は、慈善心と、宮の奉仕を維持するために惜しまず献金することによって世間から尊敬されていたので、神の恵みは確実であると思っていた。」(同上 200)

- b. ニコデモはどんな時間にイエスに会いに行きましたか (ヨハネによる福音書 3:2 (上句))。

「特別な調査によって、オリブ山にひっこんでおられる救い主の居所を知ると、彼は町が眠りのうちに静まるまで待ち、それからイエスをたずねて行った。」(同上 198, 199)

- a. このような夜更けに訪問者を受け入れたイエスの優しい理解を示すものは何ですか (詩篇 31:20, 21)。

「ニコデモはイエスとの面会を非常に望んだが、公然とイエスに会うことをちゅうちょした。ユダヤ人の役人が、まだほとんど名も知られていない一教師に共鳴していることを公然と表明することは不面目なことだった。イエスをたずねたということがもしサンヒドリンに知られたら、彼らの嘲笑と非難とを招くであろう。彼は、自分が公然とたずねるとほかの者たちがまねをするからという理由を口実にして、ひそかにイエスに面会しようと決心した。」(各時代の希望上巻 168)

- b. どのようにニコデモがイエスとの会見を始めたかを述べなさい (ヨハネによる福音書 3:2)。

「キリストの前に出ると、ニコデモは妙な気おくれを感じ、それを平静と威厳の様子によっておしかくそうとつとめた。彼は言った、『先生、わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています。神がご一緒でないなら、あなたがなさっておられるようなしるしは、だれにもできはしません』(ヨハネ 3:2)。彼は、教師としてのキリストの非凡な才能について、また奇跡を行われるすばらしい力について語ることによって、面会の道ならしをしようと望んだ。彼のことは信頼心をあらわし、また信頼心を起させるように意図されていた。だが実際にはそのことばに不信があらわれていた。彼はイエスをメシヤとしてみとめず、ただ神からつかわされた教師としてみとめた。」(同上 198, 199)

- c. キリストはどのような概念でニコデモを驚かせましたか (ヨハネによる福音書 3:3)。

「このあいざつをみとめないで、イエスは、相手の心の奥底を読んでおられるかのように、語り手にじっと目をそそがれた。限りない知恵を持っておられるイエスは、ご自分の目の前に真理を求めているひとりの人間をごらんになった。主はこの来訪の目的をご存じであった。そこで主は、相手の心にすでにめばえている確信を深めようと望んで、まっすぐ中心点にふれ、厳粛に、しかしやさしく言われた、『よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない』(ヨハネ 3:3)。ニコデモは、主と議論しようと思ってやってきたのであったが、イエスは真理の根本原則をはっきりとお示しになった。」(同上 199)

- a. ニコデモはキリストが必要だと言われたことにどのように答えましたか、また彼と同じように、なぜわたしたちは新しく生まれる経験が必要なのでしょう(ヨハネによる福音書 3:4-8)。

「イエスは、新しく生れるという表現をお用いになったが、それはニコデモにとって全然聞きなれないことばではなかった。異教からイスラエルの信仰に改宗した者は、よく生れたばかりの子供にたとえられた。だから彼はキリストのことばを文字通りの意味に受け取るべきではないことをみとめていたにちがいない。しかし彼は、イスラエル人として生れたおかげで、自分は必ず神のみ国にはいるものと考えていた。彼は自分が変化する必要があると思わなかった。だから救い主のことばに驚いたのである。彼はこのことばがぴったりと自分自身にあてはめられたことにいらだった。パリサイ人としての誇りが真理を求める者としての正直な願いと戦っていた。彼はキリストがイスラエルのつかさとしての彼の立場を尊敬しないで、自分にこんな話し方をされるのをあやしんだ。

驚いて落ち着きを失った彼は、皮肉のこもったことばで、『人は年をとってから生れることが、どうしてできますか』とキリストに答えた(ヨハネ 3:4)。彼は、他の多くの人々と同じように、鋭い真理が良心に訴えられると、生れながらの人は神のみたまの賜物を受け入れないということをあらわした。彼のうちには霊的事物に応ずる何ものもない。なぜなら霊的事物は霊的に判断されるからである(コリント第一2:14 参照)。

しかし救い主は議論に議論をもって応じられなかった。キリストは重々しく静かな威厳をもって片手をあげ、一層強い保証をもって、『よくよくあなたに言うておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない』と、真理を強調された(ヨハネ 3:5)。(各時代の希望上巻 200, 201)

- b. 人はいつ、またどのように新たに生まれることができますか(ヨハネによる福音書 1:12, 13)。

「神は、人間が神と和解することができるように、『そのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。』人間は、キリストの功績によって、創造主との調和を回復することができるのである。彼の心は、神の恵みによって新しくされなければならない。彼は、上からの新しい生命を受けなければならない。この変化が新生であって、これがなければ「神の国を見ることはできない」とイエスは言われるのである。」(各時代の争闘下巻 194)

「神を信ずるこの簡単な行為によって、聖霊はわたしたちの心に新しいのちをお与えになる。わたしたちは神の家族の子供として生れたのである。ですから、神はみ子をお愛されるのと同じようにわたしたちを愛してくださるのである。」(キリストへの道 67)

- a. 新しく生まれることに伴う清めと再生を象徴するものは何でしょうか（マルコによる福音書 16:16（上句））。

「心を改変する神の力は遺伝的後天的な傾向を変えることができる。なぜならイエスの宗教は向上させる宗教だからである。『新たに生まれる』ということは改変すること、キリスト・イエスにあつて生まれ変わることを意味する。」（アドベンチスト・ホーム 222）

「キリストはバプテスマをご自分の霊的王国に入る印となさった。このお方はこれを御父と御子、また聖霊の権威の下にいることを認められたい者はみな、この儀式に応じなければならない。キリストはこの儀式を明確な条件とされた。人は教会の中に場所を見出す前に、神の霊的王国の入り口に入る前に『主はわれわれの正義』という神の御名の刻印を受けなければならない（エレミヤ 23:6）。

バプテスマは最も厳粛な世を放棄する儀式である。御父、御子また聖霊の三重のみ名によってバプテスマを受ける者は、クリスチャン生活のまさに入り口で、公に自分たちがサタンに仕えることを止め、天の王の子、王家の一員となったことを宣言する。彼らは『彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ…そして汚れたものにふれてはならない』との命令に従ったのである。そして彼らに対して『わたしはあなたがたを受け入れよう。そしてわたしはあなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう。全能の主がこう言われる』との約束が成就する（コリント第二 6:17, 18）。」（教会への証 6 巻 91）

- b. わたしたち人間生来の悪と、わたしたちを聖化なさろうとする神のご計画について何が宣言されていますか（ヨハネによる福音書 3:6; エレミヤ書 17:9; エペソ人への手紙 5:26, 27）。

「わたしたちは、自分の力で一度沈んだ罪の淵からのがれることはできない。また、わたしたちの悪……教育、教養、意志の力、人間の努力などいづれも、それぞれ大切な役割をもってはいるが、心を新たにする能力は全くないのである。もちろん、わたしたちの行動にただ外面的の正しさは与えるかも知れないが、心を変えることもできなければ、生活の源泉をきよめることもできないのである。天よりの新しい生命がその人の内部に働かなければ、人は罪よりきよめられることはできない。この力というのはキリストである。キリストの恵みのみが人の力なき魂を生きかえらせて、これを神と聖潔にひきつけることができるのである。」（キリストへの道 15）

- a. 使徒たちは後に新生に伴う焦点の変化に関してどのようなメッセージを書きましたか(ガラテヤ人への手紙 2:20; ヨハネの第一の手紙 2:15-17)。

「心を改変する神の力は遺伝的後天的な傾向を変えることができる。なぜなら、イエスの宗教は向上させる宗教だからである。「新たに生まれる」ということは改変すること、キ

リスト・イエスにあつて生まれ変わることを意味する。」(アドベンチスト・ホーム 222)

「[パウロ] は天の大君がなされた驚くべき犠牲を人々の心に理解させることができるならば、すべての利己主義は心から追い払われることができると確信していた。彼はまずキリストが天においてご自分の御父の傍らで占めておられた立場に心を向けさせ、その後このお方はご自分の栄光を捨て、人間の生来のあらゆる謙遜な状態に自発的に服従し、僕の責任を引き受け、死に至るまで従順であり、またその死が最も不名誉で目を背けたくなるような恥ずべきものであり、最も苦しい十字架の死であったことを明らかにした。クリスチャンは愛の感情や、わたしたちは自分のものではないという事実を実感することなしに、人間に対する神の愛のこの驚くべき表れを熟考することができるであろうか。このような主に悪意、貪欲、利己的な動機から仕えるべきではない。」(教会への証 4 巻 458)

「キリストがニコデモに言われたように、わたしはあなたがたに呼びかける『あなたは新しく生まれなければならない』と。キリストが内に支配している人は世の見せかけを真似ようという思いはない。彼らはどこでも十字架を掲げ、この世の人々が夢中になっているものよりも高い目的と崇高な主題を常に証するであろう。わたしたちの服装、住居、会話は神への献身を証するものでなければならない。このようにキリストのためにすべてを捧げたことを示す者には、どんな力が伴うであろうか。」(同上 5 巻 189)

個人的な復習問題

金/1月31日

1. ニコデモは自分の良い行いによって、彼は自分自身をどのようにみなしていましたか。
2. ニコデモはキリストの御前でどのようにふるまいましたか。
3. 「新たに生まれる」とはどのような意味ですか。
4. 新しく生まれるということはどうに起こりますか。
5. 新たに生まれた結果としてその態度にどのような変化が起こりますか、またそれはなぜですか。

聖霊の働き

暗唱聖句：「そして、ちょうどモーセが荒野でへびを上げたように、人の子もまた上げられなければならない。それは彼を信じる者が、すべて永遠の命を得るためである」(ヨハネによる福音書 3:14, 15)

推奨文献： キリストの実物教訓 70-76

「見よ、ああ、イエスを仰ぎ見て生きなさい。」(クリスチャン教育 76)

1. 質問を促す

日/2月2日

- a. ニコデモのどの質問が、彼の心が和らいでいることを示していますか(ヨハネによる福音書 3:9)。

「イエスは事実上、ニコデモにこう言われた、論争をすることはあなたの状況を助けることにはならない。魂に光をもたらすのは議論ではない。あなたは新しい心を得なければならない、そうでなければあなたの天の王国を理解することはできない。あなたを正しい立場に導くのはより大きな証拠ではなく、新しい目的、新しい行動の源なのである。あなたは新しく生まれなければならない。この変化が起こり、全てのものが新しくなるまで、どんなに強い証拠が示されたとしても無駄であろう。欠乏はあなた自身の心にある。全てが変えられなければ、あなたは神の国を見ることはできない。

これはニコデモにとって非常に屈辱的な発言であった。…彼はキリストの言葉の意味を理解できるだけの十分な霊的思いを持っていなかった。しかし救い主は議論に議論をもって応じられなかった。…

いくつかの真理がこの役人の思いに輝いた。キリストの言葉は彼に畏敬の念を起こさせ、『どうして、そんなことがあり得ましようか』という質問へと導いた。イエスは深い真剣な表情で『あなたはイスラエルの教師でありながら、これぐらいのことがわからないのか』とお答えになった。このお方の言葉はニコデモに、自分の霊的な無知のゆえに単純な真理のみ言葉にいらだったり、皮肉にふけったりするのではなく、自分自身についてもっと謙遜な意見を持つべきだという教訓を伝えておられる。しかしキリストの言葉は非常に厳粛な威厳をもって語っておられ、その表情と口調の両方が彼に対する切実な愛を表していたので、彼は自分の不面目な立場を理解し、気分を害することはなかった。」(牧師への証 368, 369)

a. パリサイ人は何に誇りを持っていましたか（ルカによる福音書 18:9-12）。

「ユダヤ人は、最初に主のぶどう園に召されたものであった。そのために、彼らは、高慢で自らを義としていた。彼らは、自分たちの長年の奉仕の結果として、他の人以上に大きな報酬を受ける資格があると思った。神のことがらに関して、異邦人もユダヤ人と同じ特権にあずかることができることをほのめかすことほど、ユダヤ人を怒らせるものはなかった。」（キリストの実物教訓 379）

b. どのようにイエスは心の中における聖霊のお働きを描写なさいましたか（ヨハネによる福音書 3:8）。

「風は木々のこずえに音をたて、葉や草花をさらさらと鳴らせるが、目に見えないので、だれも風がどこからきてどこへ行くかを知らない。心に働く聖霊の働きもこれと同じである。それは、風の動きと同じように、説明することができない。人は自分が信仰にはいった正確な日時と場所を言ったり、入信の過程における事情を始めから終りまで説明したりすることができないかも知れない。だがそのことは、彼が信仰にはいっていないという証拠にはならない。風のように目に見えない力によって、キリストはたえず心に働きかけておられる。」（各時代の希望上巻 202）

c. 神聖な印象はどのようにして心に定着しますか（イザヤ書 30:21; エレミヤ書 42:3; マタイによる福音書 16:17）。

「すこしずつ、おそらく本人の気がつかないうちに、魂をキリストへひきよせるのに役立つ印象が与えられているのである。こうした印象は、キリストについて冥想したり、聖書を読んだり、あるいは説教者のことばをきいたりすることによって与えられるかもしれない。そしてみたまがもっと直接に訴えるとき、突然にその魂はよろこんでイエスに屈服する。多くの人はこれを突然の改心と呼ぶが、それは神のみたまが長い間その人を説得した結果、すなわち長期間にわたる忍耐強い作用の結果である。」（同上）

「神の御霊によってあなたの心が和らげられ征服されるようにしなさい。氷で閉ざされた魂を聖霊の働きの下で溶かしていただく。」（手紙と原稿 12 巻手紙 53, 1897 年）

- a. 聖霊の内なる働きはどのようにして外に現れますか (ガラテヤ人への手紙 5:22-25)。

「風自体は目に見えないが、風によって生ずる結果は見たり感じたりすることができる。同じように、魂に対するみたまの働きは、その救いの力を感じた人のすべての行為にあらわれる。神のみたまが心を占領されるとき、それは生活を生れ変らせる。罪の思いはしりぞけられ、悪い行為は放棄され、愛と謙遜と平安が怒りとねたみと争いに入れ代る。よろこびが悲しみに入れ代り、顔には天の光が反映する。」(各時代の希望上巻 203)

- b. いつ人は聖化の祝福を受けますか (ローマ人への手紙 10:9, 10; ヨハネの第一の手紙 1:9)。

「だれも重荷を持ちあげる手を見たり、天の宮からくだる光を目に見たりする者はない。祝福は、信仰によって魂が神に屈服するときに与えられる。その時、人間の目で見ることのできない力が、神のかたちにかたどって新しい人間を創造する。」(同上)

「もしあなたが聖霊に日々心を型どられ、形成されているならば、神の国の特徴を理解する神聖な洞察力を持つことができるであろう。ニコデモはキリストの教訓を受け入れ、真の信者となった。」(牧師への証 369, 370)

- c. どのようにキリストはこの過程を描写なさいましたか (マタイによる福音書 13:33)。

「粉の中に混ぜられたパン種は、目で見ることにはできないが、粉全体を発酵させてしまう。そのように、真理のパン種もだれにも気づかれないうちに徐々に魂を変えていくのである。生まれながらの傾向が、なごやかにしずめられる。新しい思想、新しい感情、新しい動機が植えつけられる。キリストの生涯が、新しい品性の標準になる。精神は一変し、その人の能力は、新しい方向に向かって行動を起こす。これは、何も新しい能力が与えられるのではなく、すでに持っている能力が清められるのである。良心がめざめる。こうして、神のために奉仕するにふさわしい品性の特徴が与えられるのである。」(キリストの実物教訓 73)

- a. イエスはまもなく起こるご自身の十字架についてどのように描写なさいましたか (ヨハネによる福音書 3:14, 15)。

「〔ヨハネ 3:14, 15 引用〕。ここにニコデモのよく知っている根拠があった。上げられた蛇(へび)の象徴によって、彼は救い主の使命をはっきりととった。イスラエルの民が火の蛇のかみ傷のために死にかけていた時、神はモーセに青銅の蛇を作って会衆のまん中に高くかかげるように命じられた。そして蛇を仰ぎ見る者はみな生きられるという布告が陣営中に伝えられた。人々は、蛇そのものには彼らを助ける力がないことをよく知っていた。それはキリストの象徴だった。滅ぼす蛇の形に作られた像が彼らのいやしのためにあげられたように、『罪の肉の様』につくられたおかたが彼らのあがないの主となられるのであった(ローマ 8:3)。イスラエル人の多くは、いけにえの儀式そのものに彼らを罪から解放する力があると思っていた。青銅の蛇に価値がなかったように、いけにえの儀式そのものにも価値がないことを彼らに教えようと神は望まれた。それは彼らの心を救い主に向けさせるのであった。きずをいやされるためであろうと、罪をゆるされるためであろうと、彼らは神の賜物キリストへの信仰をあらわす以外では何もできなかった。彼らは仰いで見て、生きるのであった。」(各時代の希望上巻 205, 206)

- b. この備えがあるにもかかわらず、なぜある者は死ぬのでしょうか(コリント人への第一の手紙 10:9; ヘブル人への手紙 3:12)。

「天の神がお定めになったいやしの方法に、何の価値も認めなかったイスラエル人が多くあった。彼らのまわりには、すでに死んだ人や死にかけて人々が、一面に横たわっていた。そして、神の助けがなければ、彼ら自身の運命がどうなるかも明らかであった。彼らには、いやしが瞬間的に与えられるのであったが、彼らは、その傷の痛みと、刻々と迫ってくる死とを悲しみ続け、ついに、その力はつき果て、目は光を失った。」(人類のあけぼの下巻 35, 36)

- c. もし救われたければ、わたしたちはどこを見なければなりませんか(ヘブル人への手紙 6:19, 20)。

「罪の致命的結果は、神がお備えになった方法によってのみ除くことができる。イスラエルの人々は、上げられたへびを見ることによって救われた。こうしてながめたことは、信仰を意味していた。彼らは神の言葉を信じ、神が彼らの回復のためにお備えになった方法に信頼したから、生きたのである。そのように、罪人は、キリストを仰ぎ見て生きることができる。

罪人は、贖罪の犠牲を信じる信仰によって許しを受ける。命のない動かないへびとは違って、キリストは悔い改める罪人をいやす力と功績を、ご自身のうちに持っておられる。」(同上 34)

- a. 後にニコデモが理解した教訓の中でわたしたちは何を吸収し、常に何を心にとめておく必要がありますか (エペソ人への手紙 2:8; ルカによる福音書 13:20, 21)。

「しばしば、次のような疑問が起こる。では、神のことばを信じると言っている人の、ことばにも、精神にも、品性にも改革が見られないのは、いったいどうしたことであろうか。自分がよく考えて計画したことに対する反対があつたりすると、がまんできずに、ついに短気を起こし、するどい激しいことばを口にするものが多いのはなぜであろうか。また、彼らの生活には、世俗の人が持っているのと同じ利己心、放縦、短気、はげしいことばがみられる。彼らは、真理を全く知らないかのように、世人と同じ傷つきやすい誇り、同じ生来の傾向、同じ品性のゆがみをもっている。というのは、彼らが悔い改めていないからである。彼らは真理のパン種を持っていない。パン種は、まだその仕事を始める機会がないのである。彼らの先天的および後天的の悪への傾向が、パン種の改変力に屈服していないのである。彼らの生活は、キリストの恵みに欠けていることと、品性を改変するキリストの力を信じていないことをあらわしている。

『信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである』(ローマ 10:17)。聖書は、品性を改変する大きな能力である。『真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります』とキリストは祈られた(ヨハネ 17:17)。神のことばを学んで従うならば、それは、心の中で活動を始め、すべての清くない性質を征服する。また、聖霊が降下して、罪を指摘する。すると、心の中に生じた信仰は、キリストに対する愛によって活動しはじめ、からだも心も魂も、すべてをキリストのかたちに一致させるのである。

こうして神は、み心を行なうためにわたしたちをお用いになるのである。与えられた力は、内から外へと作用して、わたしたちに伝えられた真理を他に伝えさせるのである。」(キリストの実物教訓 74)

個人的な復習問題

金/2月7日

1. キリストの時代のパリサイ人の主な特徴は何でしたか。
2. わたしたちがどのようにしてキリストに似た者に生まれ変わることができるかを説明しなさい。
3. 心の変化はどのようにして現れるでしょうか。
4. 上げられた蛇の象徴を説明しなさい。
5. パン種の譬えは神の恵みにおける成長をどのように明らかにしていますか。

イエスとバプテスマのヨハネ

暗唱聖句：「彼は必ず栄え、わたしは衰える。」(ヨハネによる福音書 3:30)

推奨文献： 教会への証 5巻 721-729

「バプテスマのヨハネはわたしたちの救い主によって最も偉大な預言者であると宣言された。しかしこの神の人の言葉と十字架の代表者であると公言する多くの者の言葉とは何と対照的であることであろう。ヨハネは自分がキリストなのか、と質問された時、彼は自分には主のくつのひもを解く値うちもないと宣言した。」(教会への証 5巻 224)

I. 弟子たちの間の問題

日/2月9日

- a. どのような問題がヨハネの弟子たちとユダヤ人の間で生じましたか (ヨハネによる福音書 3:25)。

「ヨハネの弟子たちは高まって行くイエスの人気をねたみの目で見た。彼らはイエスの働きを批判しようと待ちかまえていたが、まもなくその機会をみつけた。バプテスマは魂を罪からきよめるのに役立つかどうかということについて、彼らとユダヤ人との間に疑問が起った。彼らはイエスのバプテスマはヨハネのバプテスマと本質的にちがっていると主張した。まもなく彼らはバプテスマの時に用いるのに適当なことばの形式について、そしてついにはいったいキリストの弟子たちにはバプテスマをさずける権限があるのかどうかということについて、キリストの弟子たちと論争した。」(各時代の希望上巻 211)

- b. ヨハネの弟子たちはキリストの働きに対する嫉妬の気持ちをどのように表現しましたか。そしてヨハネはどのような高尚な答えを与えましたか (ヨハネによる福音書 3:26, 27)。

「ヨハネは人間に共通の欠点や弱点を生れつき持っていたが、神の愛にふれることによって生れ変っていた。彼は利己心と野心にけがされていない雰囲気の中に住み、ねたみという毒気にまったく超越していた。彼は自分の弟子たちの不満に同情を示さずに、自分がメシヤに対してどんな関係にあるかをはっきりわきまえていることと、自分がそのために道を備えてきたおかたを歓迎していることを明らかにした。」(同上 212)

- a. どのようにヨハネは自分の使命を理解していることを示しましたか (ヨハネによる福音書 3:28, 29)。

「ヨハネは自分のことを、婚約者たちのために結婚への道を準備する使者の役目をつとめる友人であると言っている。花婿が花嫁を受け取った時に、その友人の役目は果される。彼は自分が尽力して縁を結ばせた人々の幸福をよろこぶ。このようにヨハネは、人々をイエスに向けてのために召されていたので、救い主の働き成功を目に見ることは彼のよろこびであった。」(各時代の希望上巻 212)

- b. ヨハネの働き、またわたしたちの働きを述べなさい (ヨハネによる福音書 1:23, 29)。

「ヨハネは、信仰をもってあがない主を見たとき、自己否認の高さにまでたかめられた。彼は人々を自分にひきつけようとしなくて、むしろ彼らの思いをだんだん高めて、ついには彼らが神の子羊イエスに目を向けるようにした。彼自身は一つの声、荒野の叫びにすぎなかった。いま彼は、いのちの光であられるおかたにすべての人の目が向けられるために、自分はよろこんで沈黙し、世間から忘れられることに甘んじた。

神の使命者としての召しに忠実な人たちは自分にほまれを求めない。自分を愛する思いは、キリストへの愛によってなくなる。とうとい福音のみわざをさまたげるような対抗意識は何もない。彼らは、バプテスマのヨハネのように、『見よ、世の罪を取り除く神の子羊』とのべつたえることが自分の働きであることをみとめる (ヨハネ 1:29)。彼らはイエスを高め、そしてイエスとともに人間性が高められる、『いと高く、いと上なる者、とこしえに住む者、その名を聖となえられる者がこう言われる』、『わたしは高く、聖なる所に住み、また心砕けて、へりくだる者と共に住み、へりくだる者の霊をいかし、砕けたる者の心をいかす』(イザヤ書 57:15)。(同上 213)

「あなたは自分の楽しみや都合の良さを探し求めてはならない。そうではなく、神の御心を知り、行うことを求めるべきである。一人一人が自問しよう。わたしはある魂に世の罪を取り除く神の小羊を指し示すことができないであろうか。わたしは失望した者を慰めることができないであろうか。わたしは神の王国でだれかの魂を救う手段になれないであろうか。わたしたちは自分たちの心に神の御霊の深い感動を望んでいる。それはわたしたち自身が白い衣を得ることができるだけでなく、他の人々にも影響を与え、彼らの名が決して消されることなく命の書に記されるようになるためなのである。」(ヒストリカル・スケッチ 140)

- a. 大多数の人々はキリストのメッセージに対してどのように反応しましたか (ヨハネによる福音書 3:32)。

「ヨハネの弟子たちは、人々がみなキリストのもとに行っていると告げたが、ヨハネはもつとはっきりした見通しをもって、『だれもそのあかしを受けられない』と言った (ヨハネ 3:32)。しかし『そのあかしを受けいれる者は、神がまことであることを、たしかに認めたのである。』 (ヨハネ 3:33)。」 (各時代の希望上巻 214)

- b. 霊の賜物はだれに授けられますか (ヨハネによる福音書 3:34)。

「われわれは、よろこんでおのれをむなくするときのみ天の光を受けることができる。われわれは、すべての思いをとりこにしてキリストに従わせることに同意しないかぎり、神のご品性を認識することも、信仰によってキリストを受け入れることもできない。これをなす者にはすべて、聖霊が無制限に与えられる。『キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており、そしてあなたがたは、キリストにあつて、それに満たされているのである』 (コロサイ 2:9, 10)。」 (同上 214)

- c. 聖書にはどのように聖霊をより大きな度合いで受けるためのかぎが明らかにされていますか (ヨハネによる福音書 14:15-17; 使徒行伝 5:32)。

「わたしたちは『信じます』というだけではなく真理を実践しなければならない。わたしたちの神とのつながりを証明できるのは、わたしたちの言葉、わたしたちの態度、品性が神の御旨に服従することである。律法の違反である罪を捨てる時はいつでも、その人の人生は律法に服従し、完全な従順へと至る。これは聖霊の働きである。注意深く研究されたみ言葉の光、良心の声、御霊の努力は、キリストへの愛、すなわち人、体、魂、霊のすべてを贖うためにご自身を犠牲としてささげられたキリストに対する真の愛を心の中に生じさせる。愛は従順の内に現される。神を愛し、その戒めを守る者たちと、神を愛さずこのお方の教えを無視する者たちとの境界線ははっきりしており、明確である。」 (教会への証 6 巻 92)

- a. バプテスマを受けることを決心する時に、わたしたちがキリストのためにどのような一歩を踏み出しているかを理解することがなぜ重要なのですか(ヨハネによる福音書 3:36)。

「キリストを離れては、バプテスマは、他の儀式と同じように、無価値な形式である。」各時代の希望上巻 214)

「キリストのバプテスマとヨハネのバプテスマのどちらが罪からきよめるかということは議論の必要がない。魂にいのちを与えるのはキリストの恵みである。」(同上 214)

「不死はキリストによってのみ獲得することができるのである。『御子を信じる者は永遠の命をもつ。御子に従わない者は、命にあずかることがない。』とイエスは言われた(ヨハネ 3:36)。だれでも条件に応じさえすればこの貴重な祝福を手に入れることができる。『耐え忍んで善を行って、栄光とほまれと朽ちぬものを求める人に、永遠のいのちが与えられ』るのである(ローマ 2:7)。」(各時代の争闘下巻 281)

「バプテスマは最も厳粛な世の放棄である。御父、御子、聖霊の御三方のみ名によってバプテスマを受ける者は、クリスチャン生活のまぎに入り口でサタンへの奉仕を捨て王家の一員、天の王の子になったことを公に宣言するのである。」(教会への証 6 巻 91)

- b. バプテスマが意味する現実的な生活の献身の深さを明らかにしたバプテスマのヨハネの驚くべき言葉を説明しなさい(ルカによる福音書 3:7, 8)。

「ヨハネは木の根元におのを置いた。彼は結果をおそれずに罪を責め、神の小羊キリストのために道を備えた。

ヘロデは、ヨハネの力強く、するどいことばをきいて心を動かされ、深い興味をもって彼の弟子になるにはどうすべきかを問うた。ヘロデは、自分の兄弟がまだ生存しているのに、その妻をめとろうとしていた。ヨハネはそのことを知っていたので、それが正しくないことを忠実にヘロデに告げた。」(初代文集 268)

「バプテスマのヨハネは身分の低い職業の人にも、地位の高い人にも公然たる非難をもって罪と向き合った。彼は王や貴族たちに、彼らが聞くか拒むかに関わらず、真理を宣言した。彼は個人的に、また的を射て語った。」(セクレッド・メッセージ 2 巻 149)

- a. パリサイ人たちがヨハネとご自身との間に危機を作り出そうとしていることにお気づきになって、イエスはどうかさいましたか(ヨハネによる福音書 4:1-3)。

「イエスは、〔パリサイ人たち〕がご自分の弟子たちとヨハネの弟子たちとの間にみぞをつくるためには努力を惜しまないことをご存じだった。イエスは、かつてこの世に与えられた最も偉大な預言者の一人を吹き倒すような嵐が迫っていることを知っておられた。誤解と不和のあらゆる機会を避けようと望んで、キリストは静かにご自分の働きをやめてガリラヤに退かれた。われわれもまた、真理に忠実である一方では、不和と誤解にいたるかも知れないようなことはすべて避けるようにすべきである。なぜなら、そうしたことが起るといつでも、その結果は魂が失われることになるからである。われわれは、不和を生ずる恐れのある事情が起ったときにはいつでも、イエスとバプテスマのヨハネの模範にならわねばならない。」(各時代の希望上巻 215)

- b. 危機を打開するためのヨハネの態度からわたしたちは何を学ぶべきでしょうか(ヨハネによる福音書 3:30)。

「だがヨハネの弟子たちのように、多くの者は、その働きの成功が最初の働き人によってきまるかのように思うのである。注意は神よりも人に向けられ、ねたみがいりこみ、こうして神の働きがさまたげられる。このように不当にほまれを受けた当人は、自信をいなくように誘惑を受ける。彼は自分が神に依存していることをみとめない。人々は、人間の指導を信頼するように教えられ、こうして彼らは誤りに陥り、神から離れさせられる。

神の働きには人間の肖像や刻印はおされない。主は時々、別のうつわを持ってこられるが、その人を通して神のみこころは最もよく成就されるのである。おのれを低くして、バプテスマのヨハネのように、『彼は必ず栄え、わたしは衰える』と心から言うことのできる者はさいわいである(ヨハネ 3:30)。」(同上 216)

個人的な復習問題

金/2月14日

- なぜヨハネの弟子たちはキリストのお働きに嫉妬したのでしょうか。
- ヨハネは彼の弟子たちに何を宣言しましたか。
- 聖霊の賜物は何の目的で与えられるのでしょうか。
- バプテスマはどのようにしてその真の目的を果たすのでしょうか。
- 弟子たちの間に危機が迫っていることに気づいた時、イエスとヨハネは何をしましたか。

イエスとサマリヤの女

暗唱聖句：「しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。」(ヨハネによる福音書 4:14)

推奨文献： 教会への証 4巻 384-387

「この世の泉でかわきをいやそうとする者は、飲んでもすぐにまたかわくだけである。どこでも人々は満足していない。彼らは魂の必要を満たすものを求めている。その足りないところを満たすことのできるおかたはひとりしかない。世の必要、『万国の願うところのもの』はキリストである。(ハガイ書 2:7 文語訳)。(各時代の希望上巻 221)

I. スカルでのイエス

日/2月16日

- a. ガリラヤへの旅の途中、イエスとこのお方の弟子たちはどこに立ち寄りましたか(ヨハネによる福音書 4:5, 6)。

「イエスは、井戸ばたにすわられたとき、飢えとかわきのために弱っておられた。朝からの旅は長かった。そしていま真昼の太陽がイエスを照りつけていた。すぐそばにありながら手の届かないつめたい新鮮な水のことを思うと、イエスのどのかわきは一層つめた。つなもなければ水おけもなく、しかも井戸は深かった。イエスは人間の身であられたので、だれかが水をくみにくるのを待たれた。」(各時代の希望上巻 217, 219)

- b. だれが井戸に来ましたか、またイエスは彼女にどのような願いをなさいましたか。わたしたちはこれから何を学ぶべきでしょうか(ヨハネによる福音書 4:7)。

「ユダヤ人とサマリヤ人との間に憎しみがあるために、この女はイエスに親切を申し出ることができなかった。しかし救い主はこの人の心にはいる鍵をみつけようとしておられたので、神の愛から生じる機知をもって、恩恵を提供するのではなくかえてこれを求められた。親切を提供しようとするれば、ことわられたかもしれない。だが信頼心は信頼心を呼び起す。天の王がこの見捨てられた魂のところにおいてになって、彼女の手の奉仕を求められたのである。大洋を作り、大海を支配し、この地上の泉と水路をお開きになったおかたが、疲れてヤコブの井戸のところで休み、一杯の水をもらうためにさえ見知らぬ人の親切にたよられたのである。」(同上 219)

- a. 救いの賜物についてイエスはどのように女の注意を呼び覚まされましたか（ヨハネによる福音書 4:10）。

「キリストが言及なさった水とは、このお方のみ言葉における神の恵みの啓示であった。このお方の御霊、このお方の教えはすべての魂を満たす泉のようなものである。他のどの源を訪れてもそれらは満足させるものではないことが判明するであろう。しかし真理の言葉はレバノンの水によって表される冷たい流れのようなもので、いつでも満たしてくれるのである。キリストの内には永遠に満ち溢れる喜びがある。」（牧師への証 390）

- b. キリストの申し出に対して女の反応はどのようなものでしたか（ヨハネによる福音書 4:11, 12）。

「その女の理解力はキリストの言われた意味を理解していなかった。彼女はこのお方が目の前にある井戸について語られているのだと思った。」（預言の霊 2巻 140, 141）

- c. イエスはどのようにしてある種類の水と別の水を区別なさいましたか、またこのメッセージはどのようにわたしたちにも祝福をもたらしますか（ヨハネによる福音書 4:13, 14; ヨハネの黙示録 22:17）。

「わたしたちは愛と感謝を大切にし、イエスを仰ぎ見、そしてこのお方の御姿に変えられるべきである。その結果として自信、希望、忍耐、勇気が増すであろう。わたしたちはキリストがサマリヤの女に語られた命の水を飲むべきである。このお方は『もしあなたが神の賜物のことを知り、また、「水を飲ませてくれ」と言った者が、だれであるか知っていたならば、あなたの方から願い出て、その人から生ける水をもらったことであろう。…わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう』。この水はキリストの命を表しており、すべての魂は神との生きたつながりを持つことによってこれを得なければならない。そうすれば、祝福された、謙遜な、感謝に満ちた確信が魂の中に宿る原則となるのである。不信仰な恐れは生きた信仰の前から一掃される。わたしたちはわたしたちを初めに愛してくださったお方のご品性を熟考すべきである。」（牧師への証 226）

- a. どのようにサマリヤの女はまだキリストのみ言葉を理解していないことを表しましたか (ヨハネによる福音書 4:15)。

「キリストだけがお与えになれる神の恵みこそ、魂をきよめ、清新にし、活気づける生ける水である。

イエスは、一杯のいのちの水を受けるだけで十分であるという意味のことは言われなかった。キリストの愛を味わう者はたえずもっと求める。だがそれ以外のものは何も求めない。彼には世の富も栄えも楽しみも、魅力がない。彼の心は、『もっとあなたを』とたえず叫びつづける。魂に必要なをお示しになるおかたが、その飢えとかわきを満たそうと待っておられる。人間的な手段や人間にたよるときにみな失敗する。水槽はからになり、水たまりはかわく。だがあがない主は尽きない泉である。飲んででも飲んででも新しい水がいつでもわいている。キリストを内住させている人は、自分のうちに祝福の泉、永遠のいのちに至る水のわきあがる泉を持っている。この泉から、彼は自分のすべての必要を満たすのに十分な力と恵みとをくむことができる。」(各時代の希望上巻 221)

- b. サマリヤの女や出エジプト記の荒野の放浪者たちのように、わたしたちはどのようにしばしばキリストから流れ出る素晴らしい恵みに気づくことに失敗するのでしょうか (詩篇 78:15, 16, 19, 20 (上句); 114:7, 8)。

「モーセは岩を打ったが、モーセのかたわらに立って、いのちの水を流れさせたのは、雲の柱におおわれていた神のみ子であった。モーセと長老たちばかりでなく、離れて立っていた会衆のすべてが主の栄光を見た。しかし、もし雲がとり除かれたら、彼らはその中にとどまっておられるおかたの恐るべき輝きで殺されたであろう。」(人類のあけぼの上巻 346)

「み言葉の中にあるキリストの恵み深いご臨在は、常に魂に語りかけ、渇いた魂を生き返らせる生ける水の井戸としてのお方を表している。生ける永遠に不変の救い主をわたしたちが得ることができるのはわたしたちの特権である。このお方はわたしたちの内に植え付けられた霊的な力の源であり、このお方の影響は言葉や行動となって現れ、わたしたちの影響力の及ぶ範囲内のすべての人を活気づけ、強さと清さ、神聖さと平和、また悲しみをもたらさない喜びに対する望みと熱望を人々の内に生み出す。これは救い主が内住してくださる結果である。」(牧師への証 390)

- a. イエスはサマリヤの女との会話の中でどのような新しい話題を持ち出されましたか、また彼女はどのように反応しましたか(ヨハネによる福音書 4:16, 17 (上句))。

「するとイエスは、突然に話題を変えられた。イエスが与えようと望んでおられる賜物をこの魂が受けることができる前に、彼女は自分の罪と救い主をみとめねばならない。イエスは、『あなたの夫を呼びに行つて、ここに連れてきなさい』と言われる。彼女は、『わたしには夫はありません』と答えた。こうして彼女はその方面の質問を一切封じようとした。」(各時代の希望上巻 222)

- b. イエスは彼女の答えをどのように補足なさいましたか、そしてこのことはこのお方がわたしたち一人一人の事をすべてご存じであられることについて何を思い出させますか(ヨハネによる福音書 4:17 (下句), 18; 詩篇 139:7, 8, 11, 12)。

「神の偉大さは、われわれにとっては測り知れないものである。『主のみくらは天にあり』とあるが、しかし神は、その霊によって、至るところに偏在なさるのである。神はそのみ手のすべてのわざをくわしく知り、親しく関心をもっておられる。」(教育 143)

「天使たちはわたしたちの手のうちにおかれた働きを吟味している。そして真理の原則から外れているところには、「足りない」と記録の書に記されるのである。」(家庭の教育 152)

「神の律法は、外見上の行為と同様、感情と動機にまで及ぶ。それは以前暗闇に埋められたものに光を投げ、心の秘密を明かす。神はすべての考え、すべての目的、すべての計画、すべての動機を知っておられる。天の書は機会があれば犯したであろう罪まで記録する。神はあらゆる秘密の事柄と一緒にすべての行為を裁かれる。律法により神はすべての人の品性を吟味なさる。芸術家が顔の特徴をキャンバスに写し取るように各個人の品性の特徴が天の書に写し取られる。神はすべての人の品性の完全な写真をお持ちであり、この写真をご自身の律法と比較なさる。神は人に彼の生涯を損なう欠陥を明らかにし、悔い改めて罪から立ち返るように訴えられる。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1085)

- a. 井戸にいた女は最終的に何を悟りましたか (ヨハネによる福音書 4:19)。この認識は十分でしたか。

「これを聞いた女はふるえた。神秘の手が彼女の経歴のページを開き、永遠にかくしておきたいと望んでいたことを明るみに出そうとしていた。自分の一生の秘密を読みとることができるとは一体このおかたはどなただろう。彼女の心には、現在かくされていることがすべて明らかにされる来世すなわち未来のさばきについての考えが浮んだ。その光の中に、良心がめざめた。

「彼女は何もこぼむことができなかった。だがこの面白くない問題についてふれるのをいっさい避けようとした。深い尊敬の念をもって、彼女は、『主よ、わたしはあなたを預言者と見ます』と言った (ヨハネ 4:19)。それから、罪の自覚をうち消そうと望んで、彼女は宗教上の論争になっている問題を持ち出した。もしこの人が預言者なら、この人は長年論議されてきたこの問題について教えることができるにちがいない。」(各時代の希望上巻 222, 223)

- b. この女がメシヤが来られることについての希望を示したとき、イエスは彼女に何と言われましたか (ヨハネによる福音書 4:25, 26)。

「福音の招きは、狭い範囲に限定され、相手が受け入れたらこちらの名誉になるような少数のえらばれた人たちだけに与えられるのではない。福音はすべての人に与えられるのである。真理を受け入れるように心の開かれているところならどこでも、キリストは彼らを教えようとしておられる。主は彼らに天父をあらわし、人の心をお読みになる神に受け入れられる礼拝をお示しになる。こういう人々には、イエスは譬をお用いにならない。イエスは、彼らに向かって、井戸ばたの女にお語りになったように『あなたと話をしているこのわたしが、それである』と言われる (ヨハネ 4:26)。」(同上 232, 233)

個人的な復習問題

金/2月21日

1. なぜイエスはご自身のために奇跡を行われなかったのですか。
2. イエスはサマリヤの女を福音に導くためにどのような方法をお用いになりましたか。
3. 主は命の水について何と仰せになりましたか。
4. なぜキリストはサマリヤの女の個人的な人生について言及したのでしょうか。
5. メシヤの来臨に関連のある約束を挙げなさい。

安息日 2025 年 3 月 1 日

第一安息日献金 「品性をもつ子ども」 ルーマニアにおける教育センター

「青少年の初期の教育は、一般的に生涯の品性を形成する。」(教会への証 3 巻 135)

靈感は、次のような励ましの体験を語っています。「子供の集会、つまり聖書幼稚園がよい働きをした。子供たちは教えられた教科を自宅で繰り返し、母親たちは子供たちをきちんと学校に通わせる準備をすることで関心を示している。そのほとんどは、わたしたちの信仰を持たない親の子供たちである。」(伝道 上巻 583)



「品性をもつ子供たち」教育センターは、2019 年にルーマニアの山岳都市ファガラスに設立されました。ここでは 2 歳から 5 歳までの子供たちが美しく成長しています。年齢に応じた活動に加えて、子供たちは聖書の物語を学び、祈り、歌い、神を友とすることを学びます。幼いながらも、彼らは神がすべてを支配していることを理解し、問題があれば神に助けを求めることを学びます。彼らの品性は日々形成されます。神の恵みにより、わたしたちはこれらの小さな子供たちの人生に驚くべき変化を見ることができます。将来的には、物質的な事情で教育が受けられない人たちを教育したいと考えています。

初年度は 12 人の子供から始め、4 年目には 32 人の子供が参加し、そのうち 31 人は教会外から来ました。現在、活動はルーマニア連合本部に用意された 4 つの部屋で行われていますが、入会希望者が収容能力を超えているため、部屋が混雑しています。このことから、神はわたしたちがこの素晴らしい活動を継続し、発展させ、できるだけ多くの子供とその家族と接触することを望んでおられることがわかります。そこで、2021 年に市外に土地を購入し、建設を開始するために必要な許可を取得しました。今、基礎はすでに築かれています。この段階までプロジェクトを支援してくださった皆さん、そしてこれから惜しみなく支援して下さる皆さんの心に触れてくださった神に、わたしたちはとても感謝しています。皆さんの寄付により、神を知らない子供たちに神に近づき、キリスト教教育を受ける機会を与えることができます。わたしたちはあなたの善意に訴えます。あなたは無関心のままではなく、このプロジェクトを成功に導くためにわたしたちを支援して下さり、祈りも捧げて下さると確信しています。

ルーマニア連合の兄弟姉妹より

伝道者の誕生

暗唱聖句：「あなたがたは、刈入れ時が来るまでには、まだ四ヶ月あると、言っているのではないか。しかし、わたしはあなたがたに言う。目をあげて畑を見なさい。はや色づいて刈入れ時を待っている。」(ヨハネによる福音書 4:35)

推奨文献： 教会への証 5 巻 182-187

「イエスはユダヤ人と異邦人との間をへだてている壁をとりこわし、世界に救いをのべ伝え始めておられた。キリストはユダヤ人であられたが、自由にサマリヤ人とまじわり、ご自分の国民のパリサイ的な習慣を無視された。」(各時代の希望上巻 231)

1. **新しい生活、新しい優先事項** 日/2月23日

- a. イエスがメシヤであると認めると、サマリヤの女はすぐに何をしましたか (ヨハネによる福音書 4:28, 29)。

「女はキリストのみことばに聞き入っている時よろこびに満たされた。そのすばらしい啓示はほとんど圧倒的であった。彼女は水がめを残して、イエスのことばをほかの人たちに伝えるために町へもどった。イエスはなぜ彼女が立ち去ったかをご存じだった。生ける水を手に入れることが彼女の魂の熱心な願いであった。彼女は井戸へきた用事を忘れ、イエスのかわきをいやしてさしあげるつもりだったことも忘れた。よろこびにあふれる心をもって、彼女は自分が受けたとうとい光をほかの人たちに与えるために道を急いだ。」(各時代の希望上巻 228)

- b. スカルの住民が自分たちの同胞の証を聞いた時、彼らは何をしましたか (ヨハネによる福音書 4:30)。

「[その女]のことばは人々の心を動かした。彼女の顔には新しい表情があらわれ、全体の様子に変化がみられた。彼らはイエスを見たいという興味をそそられた。」(各時代の希望上巻 228)

- a. イエスはスカルの住民がやって来るのをご覧になって、このお方はご自分の弟子たちに何と仰せになりましたか（ヨハネによる福音書 4:35-38）。

「刈る者は報酬を受けて、永遠の命に至る実を集めている。まく者も刈る者も、共に喜ぶためである。そこで『ひとりがまき、ひとりが刈る』という、ほんとうの事となる」（ヨハネ 4:36, 37）。ここにキリストは、福音を受け入れる者が当然神のためにしなければならない聖なる奉仕を指摘しておられる。彼らは神の生ける代表者となるのである。神は彼らの個人的な奉仕を求められる。われわれはまこうが刈り入れようが、神のために働いているのである。一人が種をまき、他の者が収穫を集める。そしてまく者も刈る者も賃金をもらい、彼らは共にその働きの報酬をよくこぶのである。」（各時代の希望上巻 229）

- b. キリストについての女の証はどのような影響を与えましたか、またわたしたちはその証が与えた影響から何を学ぶことができますか（ヨハネによる福音書 4:39）。

「わたしたちがキリストとつながる時、わたしたちはキリストの思いを持つ。清さと愛が品性に輝き、柔和と真理が生活を支配する。顔の表情そのものが変わる。魂に内住なさるキリストは変化させる力を与え、そしてその外観の様子は内を支配してくださる平和と喜びを証言する。枝がぶどうの木から栄養を引き出すように、わたしたちはキリストの愛を飲む。もしわたしたちがキリストに接ぎ木され、繊維ごとに生けるぶどうの木につながっているならば、生きた実の豊かな房を実らせることによってその証拠を示すようになる。もしわたしたちが光とつながっていれば、わたしたちは光の通路となり、そしてわたしたちの言葉や働きによって世に光を反映させるであろう。…

眺めることによってわたしたちは変えられる。そして神聖な模範の完全さを瞑想する時、わたしたちは完全に変えられ、このお方の清い御姿に新しくされることを望むようになる。品性における変化が起こり、怒りの子が神の子となるのは、神の御子を信じる信仰によってである。彼は死から命に移り、霊的なものとなり、霊的なものを見分けることができるようになる。神の知恵が彼の思いを啓発し、彼はこのお方の律法から出る素晴らしいものを見る。人が真理によって改心させられるにつれて、品性の聖化の働きが進められるのである。」（セレクトド・メッセージ 1 巻 337, 338）

- a. サマリヤの人々はイエスに何を嘆願しましたか、それはなぜですか（ヨハネによる福音書 4:40）。
- b. キリストがサマリヤで過ごされた時の結果を述べなさい（ヨハネによる福音書 4:41）。

「井戸のところで女に話されたことばによって、よい種がまかれたが、何とまあ早く収穫が与えられたことだろう。サマリヤ人はやってきてイエスのみことばを聞き、イエスを信じた。彼らは井戸のところにられるイエスのまわりにおしよせ、イエスを質問攻めにして、これまではっきりわからなかった多くのことについてイエスの説明を熱心に聞いた。聞くにつれて、彼らの疑問が晴れはじめた。彼らはちょうど非常な暗やみの中にあつて突然ひとすじの光をさがしあて、ついに真昼に出会った人々のようだった。しかし彼らはこの短い会見に満足しなかった。彼らはもっと聞きたがり、また友人たちにもこのすばらしい教師の話をかきさせたがった。人々はイエスを自分たちの町に招き、彼らのところにとどまってくださるようにたのんだ。二日の間イエスはサマリヤにとどまられたが、さらに多くの人々がイエスを信じた。」（各時代の希望上巻 230）

「キリストはご自分の弟子たちの心のうちに特別な働きを果たすようなやり方で神を表してこられた。そしてこのお方はちょうど同じ方法でご自分がわたしたちの心のうちで働けるようにしなさいと長く訴えてこられた。あまりにも長く理論を考えてきたために救い主の模範の生きた力を見失っている者が多くいる。彼らはへりくだった自己否定の働き人としてのこのお方を見失っている。彼らに必要なのはイエスを眺めることである。日ごとにわたしたちはこのお方のご臨在の新たな現れを必要としている。」（キリストを映して 302）

- c. イエスをメシヤとして受け入れた後、多くのサマリヤ人は何を宣言しましたか（ヨハネによる福音書 4:42）。

「パリサイ人はイエスの単純さを軽蔑した。彼らはイエスの奇跡を無視し、イエスが神のみ子であるという証拠を要求した。しかしサマリヤ人はしるしを求めなかった。イエスは、井戸ばたで女に彼女の生活の秘密をあらわされた以外には、サマリヤ人の中で奇跡を行われなかった。それでも多くの者がイエスを信じた。この新しいよろこびの中で、彼らは女に、『わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。自分自身で親しく聞いて、この人こそまことに世の救主であることが、わかったからである』と言った（ヨハネ 4:42）。」（各時代の希望上巻 230）

- a. サマリヤ人は約束されたメシヤへの自分たちの信仰をどの預言に基づけていましたか (創世記 49:10)。

「サマリヤ人は、メシヤがユダヤ人の救い主としてばかりでなく、世の救い主としておいでになることを信じた。聖霊は、モーセを通して、イエスを、神からつかわされた預言者と予告していた。ヤコブを通して民はイエスのもとに集められることが告げられ、またアブラハムを通して、地の諸国民がイエスのうちにあつて祝福されるということが告げられていた。サマリヤの人々はメシヤに対する彼らの信仰をこうした聖書のみことばに置いた。ユダヤ人が後期の預言者たちを誤って解釈し、キリスト再臨の栄光を初臨にあてはめていたので、サマリヤ人はモーセを通して与えられたもの以外は全部聖書をすてていた。しかし救い主がそうしたまちがった解釈を一掃されたので、多くの人々が後期の預言と、神のみ国についてのキリストご自身のみことばを信じた。」(各時代の希望上巻 230, 231)

- b. サマリヤ人が真理に対して驚くほど心を開いていた事実から、今日のわたしたちは何を学ぶことができますか (伝道の書 11:4, 5)。

「世界中の男女は何かを求めて天を仰いでいる。光と恵みと聖霊を求める魂から、祈りと涙とねぎごとが天にのぼっていく。多くのものは、み国の入口に立って、刈り集められるのを待つばかりになっているのである。」(患難から栄光へ上巻 114)

- c. 真にキリストを受け入れた時、人はどのようにになりますか、例を挙げなさい (マルコによる福音書 5:18-20; 7:31-37)。

「[キリストの]みたまは、品性を高め、性質を高貴にするような一切のものを人のうちに発達させる。それはまた肉体と精神と魂によって神の栄えをあらわすように人を築きあげる。… 墮落してサタンの道具となってしまった魂が、今でも、キリストの力によって義の使者として生れかわり、『主がどんなに大きなことをしてくださったか、またどんなにあわれんでくださったか』を告げるために神のみ子によってつかわされている (マルコ 5:19)。」(各時代の希望中巻 68)

- a. わたしたちはサマリヤの女からどのような教訓を学ぶことができますか (ヨハネの第一の手紙 1:1-3; コリント人への第二の手紙 5:14 (上句))。

「サマリヤの女は、このおかたが救い主であるということがわかるとすぐにほかの人たちをみもとにつれてきた。彼女は、イエスご自身の弟子たちよりも有能な伝道者であることがわかった。弟子たちはサマリヤが有望な伝道地であるというしるしを何も見なかった。彼らの思いは、将来なされる大きな働きに集中されていた。自分たちのすぐまわりに集めるべき収穫があることに彼らは気がついていなかった。ところが彼らの軽蔑していた女によって、町じゅうの人々が救い主のみことばを聞きにつれてこられた。彼女は光をすぐに自分の国民に伝えた。

この女は、キリストを信じる実際的な信仰の働きを表わしている。真の弟子はみな伝道者として神の国に生れているのである。生ける水を飲む者はいのちの泉となる。受ける者が与える者となる。魂のうちにあるキリストの恵みは、砂漠の中の泉のようなもので、それはわきあがってすべての人を元気づけ、いまにも死にそうになっている人々にいのちの水を飲みたいと熱望させるのである。」(各時代の希望上巻 234)

- b. この経験は今日わたしたちをどのように鼓舞しますか (伝道の書 11:6)。

「わたしたちは神の宣教師になるために外国の地に行く必要はない。わたしたちの周りには『はや色づいて刈り入れを待っている』畑があり、だれであろうと『永遠の命に至る実』を集めることができる。神はバトルクリークで霊的怠惰で死につつある多くの者たちにご自分の御事業のための労働が必要とされている場所に行くようにと召しておられる。もし金銭的な犠牲が要求されたとしても、バトルクリークから出なさい。他の人を祝福することができるどこかへと行きなさい。弱っているある教会を力づけるために出て行きなさい。神からあなたに与えられた力を活用しなさい。」(教会への証 5 巻 187)

個人的な復習問題

金/2月28日

1. イエスを唯一の救い主として見た時、女は何をしましたか。
2. はや色づいて刈り入れを待っているということは何を意味するかを説明しなさい。
3. イエスはサマリヤ人と一緒に何日間滞在なさいましたか。
4. サマリヤ人はイエスに関してどのような証をしましたか。
5. イエスを自分の人生に受け入れるとすぐに、人々に何が起こりますか。

イエスと役人の息子

暗唱聖句：「どうか、わたしたちのうちに働く力によって、わたしたちが求めまた思うところのいっさいを、はるかに越えてかなえてくださることができるかたに、教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくあるように、アメン。」(エペソ人への手紙 3:20, 21)。

推奨文献： 教会への証 9巻 107, 108, 164-166

「われわれは、神がわれわれの願いをきかれるのを見たり感じたりするから、信じるのではない。われわれは、神の約束に信頼するのである。信仰をもって神のみもとに行くとき、願いごとはすべて神のみ心にとめられる。神の祝福を求めたら、それを受けることを信じ、そしてそれを受けたことを感謝すべきである。それからわれわれは、最も必要な時にその祝福が実現されることを確信して、自分の義務をつくすのである。」(各時代の希望上巻 241) [筆者強調]

I. 注意をひく

日/3月2日

- a. サマリアで二日をお過ごしになった後、イエスはどこへ行かれましたか、そしてこの知らせに惹かれたのはだれでしたか(ヨハネによる福音書 4:43-46)。

「キリストがカナへ帰られたという知らせは、ガリラヤじゅうにひろがり、困り苦しんでいる人たちに望みを与えた。カペナウムで、王に仕えている役人である、あるユダヤ人貴族がその知らせに注意をひかれた。」(各時代の希望上巻 236)

- b. なぜこの役人はイエスに会いに行きましたか(ヨハネによる福音書 4:47)。

「この役人の息子が不治と思われる病気にかかっていた。医者たちはその子が死ぬものとあきらめていた。だが父親はイエスのことを耳にしたとき、イエスの助けを求めようと決心した。」(各時代の希望上巻 236)

- a. カペナウムで自分の息子を癒してくださるようとキリストを求めた役人の心の内なる苦悩をキリストがどのように明らかにされたかを述べなさい（ヨハネによる福音書 4:48）。

「子供は非常に衰弱していて、父親が帰って来るまでのちはもつまいと心配されたが、父親は病状をイエスに訴えねばならないと思った。彼は父親の祈りが大医者イエスの同情をひきおこすようと望んだ。

カナに着いてみると、群衆がイエスを取りまいていた。心配な気持ちで、彼は人々をおしわけて救い主の前へ進んだ。しかしそこに、粗末な衣服をまとい、旅のほこりにまみれて疲れた様子の人だけしか見なかったとき、彼の信仰は動揺した。果してこのおかたが自分をお願いしようと思ってやってきたことをなさることができるだろうかと彼は疑った。しかしイエスと面会することができると、彼は自分の用事を話し、救い主に自分の家までいっしょにおいでいただきたいと願った。ところが彼の悲しみはすでにイエスに知られていた。この役人が家を出る前から、救い主は彼の苦悩を見ておられたのだった。

しかしイエスは、この父親がイエスに対する信仰について、自分自身の心の中に条件をもっていることもご存じだった。自分の願いがかなえられなければ、彼はイエスをメシヤとして信じないであろう。…

イエスがキリストであるというあらゆる証拠があるにもかかわらず、この嘆願者は、自分の願いがきかれるということを条件にして、イエスを信じようと決心していた。」（各時代の希望上巻 236-238）

- b. しるしを求めるように誘惑される時、わたしたちは何を思い出すべきですか（マタイによる福音書 12:38, 39）。

「キリストは、神のみことばを託されているご自分の民が、み子を通して彼らに語られる神の声をきかないことを悲しまれた。」（各時代の希望上巻 238）

「キリストの時代のように、人々はしるしを求める。そのとき、主は彼らにいかなるしるしも与えられないであろうと仰せになった。今もいつも、明らかにされるべきしるしとは、聖霊が教師の心に働きかけ、み言葉を可能な限り印象的なものにするのである。神のみ言葉は死んだ、無味乾燥な理論ではなく、霊と命である。サタンは思いをみ言葉から遠ざげること、またみ言葉の外にある何か他のものを探し求めて期待することほど彼が望んでいることはない。」（セクレット・メッセージ 2 巻 95）

- a. イエスへの信仰に関するユダヤ人とサマリヤ人の違いを説明しなさい（マルコによる福音書 6:2-6; ヨハネによる福音書 4:40-42）。

「パリサイ人たちはどれほど熱心にキリストが詐欺師であると証明しようとしたことであろう。どれほど彼らはこのお方のみ言葉の一つ一つに注目し、このお方のみ言葉を誤って伝え、誤解させようとしていたことであろう。誇りと偏見また情欲が、神の御子の証に対して魂のあらゆる道を閉ざしてしまった。このお方が彼らの不義をはっきりと譴責し、彼らの行いがサタンの子であることを証明したと宣言なさったとき、彼らは憤ってその非難をはねつけて『あなたはサマリヤ人で、悪霊に取りつかれていると、わたしたちが言うのは、当然ではないか』と言った。」（セクレッド・メッセージ 1 巻 70）

「救い主はこの疑いの念のまじった不信を、奇跡やしるしを求めなかったサマリヤ人の単純な信仰と比較された。イエスの神性についての証拠をたえず示しているそのみことばには、サマリヤ人の心を動かし、確信させる力があつた。」（各時代の希望上巻 238）

「キリストはユダヤ人ではあつたが、サマリヤ人と自由に交わり、この軽蔑された民族について、ユダヤ人が持っていたパリサイ的慣習を無視された。キリストは彼らの屋根の下に眠り、彼らの食卓で食べ、彼らの町の通りで教えられた。」（患難から栄光へ上巻 11）

- b. 時代を超えて神の民であると公言する民に現代の真理を語ってきた多くの人々の経験を述べなさい（エレミヤ書 20:8-11）。

「キリストに対して主張されたすべての議論は偽りに基づいていた。ステパノ、またパウロの場合も同様であつた。しかし間違つた側でなされた最も弱く最も信用できない発言が影響力を持ったのは、その発言が真実であることを望む、心が聖化されていない人々が非常に多かつたからである。このような人々は受け入れがたい真理を語る者たちの間違いや誤りと思われるものにしきりに執着しようとするのである。

虚偽を欲する人々によって邪悪な憶測が疑う余地のない事実として貪欲につかみ取られるとしても、わたしたちは驚くべきではない。キリストに反対する者たちは、このお方の知恵の言葉によって何度も何度も当惑させられ沈黙させられた。それでも彼らはあらゆる噂に熱心に耳を傾け、このお方に反対する質問を再び問いかける口実を見つけた。」（セクレッド・メッセージ 1 巻 70, 71）

- a. この役人の信仰がキリストを捉えた時、彼は自分の嘆願をどのように繰り返しましたか（ヨハネによる福音書 4:49）。

「この役人に対する救い主のみことばは、光のひらめきのように、彼の心を明るみに出した。彼はイエスを求めている自分の動機が利己的であることがわかった。彼は動揺している自分の信仰の本当の姿を見た。彼は自分の疑いのために息子のいのちが失われるかもしれないことをみとめて深い心配を感じた。彼は自分がいま、人の思いを読むことがおできになり、どんなことでもおできになるおかたの前にいることを知った。…彼は、ヤコブが天使と格闘して、『わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません』と叫んだ時のように、信仰をもってキリストにすがりついた（創世記 32:26）」（各時代の希望上巻 238, 239）

- b. イエスが役人の家に行く代わりにしたことからわたしたちは何を学ぶことができますか（ヨハネによる福音書 4:50）。

「イエスはもっと大きな賜物を与えようとしておられた。イエスは子供の病気をなおすばかりでなく、この役人とその家族を救いの祝福にあずからせ、まもなくイエスご自身の働きの場所となろうとしていたカペナウムに光をともしようと望まれた。しかしこの役人は、キリストの恵みを望む前に自分の必要をみとめなければならない。この宮廷の役人はユダヤ国民の多くの者を代表していた。彼らは利己的な動機からイエスに関心を持っていた。彼らはイエスの力によって何か特別な利益を受けようと望み、その信仰はこの世の恩恵を受けることにかけていた。しかし彼らは自分たちの霊的な病気について無知であり、神の恵みの必要に気がつかなかった。…

救い主は、大きな必要を訴えながらすがりつく魂をしりぞけることがおできにならない。イエスは、『お帰りなさい。あなたのむすこは助かるのだ』と言われた（ヨハネ 4:50）。役人はこれまでかつて経験したことのない平安とよろこびをもって救い主の前から立ち去った。彼は息子の病気がなおることを信じたばかりでなく、強い確信をもってキリストを贖い主として信じた。（同上 238, 239）

「だれでも自分の祈りが即座に、また直接にこたえられることを望み、そのこたえが遅れたり、期待に反した形であたえられると失望するが、神は賢明、かつ最善なお方で、わたしたちが望むときに、望むように、いつでもこたえるということはないのである。しかしわたしたちの希望が全部かなえられるよりももっとよい方法をとってくださるのである。…信仰をためすこうした体験は我々を益となるのである。」（ミズリー・オブ・ヒーリング 208, 209）

- a. 役人の息子をイエスはどのような方法で癒されましたか(ヨハネによる福音書 4:51-53)。これはどのような現実を思い起こさせますか(エペソ人への手紙 3:20, 21)。

「『あなたのむすこは助かるのだ』との保証を、父親が信仰をもって把握した瞬間に、神の愛が死にかけていた子供にふれたのだった。」(各時代の希望上巻 240)

「同じ時刻に、カペナウムの家では、死にかけている子供を見守っていた者たちが、急にふしぎな変化を目にした。死の影が病人の顔から消えた。発熱は、回復しつつある健康のおだやかな顔色にかわった。くもっていた目は理性に輝き、衰弱していたからだに力がよみがえった。病気の面影は子供のどこにもみられなくなった。燃えていた肉体はやわらかくうおい、子供は静かな眠りに落ちた。熱は日盛りになくなっていた。家族の者たちは驚き、そのよろこびは大きかった。」(同上 239)

- b. イエスは助けを嘆願する者にどのようにお答えになりますか(マタイによる福音書 11:28-30)。

「救い主は、大きな必要を訴えながらすがりつく魂を、しりぞけることがおできにならない。」(同上 239)

「あなたは自分が罪びとだから神から祝福を受ける望みがないとでもお思いになるだろうか。キリストは罪びとを救うためにこの世においてになったのだということ覚えなさい。自分自身を神に推薦するようなものは何もない。わたしたちがいつも訴えることのできる願いは、キリストのあがないの力を必要としている自分の完全に無力な状態である。わたしたちは、自己信頼の念をいっさい捨てて、カルバリーの十字架をながめ、『わが手には何も価値あるものをもたず、ただ、なんじの十字架にすぎるだけである』とすることができる。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング 40)

個人的な復習問題

金/3月7日

1. 預言者が自分たちの土地でほとんどの場合受け入れられないのはなぜですか。
2. 役人はどのような言葉で自分の不信仰を明らかにしましたか。
3. キリストは不信仰な人々に対してどのように対応なさいましたか。
4. ユダヤ人と異邦人、どちらがイエスにより大きな信仰を表しましたか。
5. イエスはこのお方の招きを受け入れるすべての人に何を約束なさいましたか。

イエスとベテスダの中風患者

暗唱聖句：「そこで、イエスは彼らに答えられた、「わたしの父は今に至るまで働いておられる。わたしも働くのである」。(ヨハネによる福音書 5:17)

推奨文献： 教会への証 1 巻 560-567

「病人をいやされたキリストの働きは、律法に完全に一致していた。それは安息日をとうとぶことになった。」(各時代の希望上巻 253)

1. 癒しの水

日/3月9日

- a. 何の目的で多くの体の不自由な人々がエルサレムへ行きましたか (ヨハネによる福音書 5:2, 3)。
- b. ベテスダの池について人々は何を信じていましたか (ヨハネによる福音書 5:4)。

「ある時期になると、この池の水面が動いた。一般の人たちは、これは超自然の力の結果で、池の水が動いてから、まっ先に水にとび込む者は、だれでも、どんな病気を持っていても、いやされると信じていた。何百人という病人たちがこの場所へやってきた。しかし水が動く、と、群衆が多いために、人々は、自分より弱い男や女や子供たちを足の下にふみつけて、突進した。池に近づくことができない者が多かった。うまく池にたどりつくことができた者でも、そのふちで死ぬ者が多かった。病人たちを昼の暑さと夜の寒さから守るために、その場所には屋根ができていた。病人の中には夜をこの廊の中で過ごし、むなしい回復の望みをもって、来る日も来る日も池のふちまではって行く人たちがいた。」(各時代の希望上巻 242)

- c. イエスと池にいる一人の男との交流はどのように始まりましたか (ヨハネによる福音書 5:5-7)。

- a. イエスは中風患者にどのような人間的には不可能な任務をお命じになりましたか、またその結果は何でしたか(ヨハネによる福音書 5:8, 9 (上句))。

「イエスは、この病人に、わたしを信じる信仰を働かせなさいとは要求なさらない。主はただ『起きて、あなたの床を取りあげ、そして歩きなさい』と言われる(ヨハネ 5:8)。しかしこの男の信仰はそのことばをしっかりとらえる。どの神経もどの筋肉も新しい生命に躍動し、不具の四肢に健康な動きがあらわれる。何にもたずねないで、彼はキリストのご命令に自分の意思を従わせる。するとすべての筋肉が彼の意思に必ず。立ちあがってみて、彼は自分が動ける人間になっていることを知る。

「イエスは彼に神の助けについて何の保証もお与えになっていなかった。その男はちょっと考えてみて疑い、一度のいやしの機会を失ったかも知れなかった。だが彼は、キリストのみことばを信じ、みことば通りに行動することによって力を受けた。」(各時代の希望上巻 245)

- b. キリストから離れた人々は自分がどのような霊的状态にあるのを見出しますか(イザヤ書 1:5, 6; ローマ人への手紙 7:24)。

「罪のために、われわれは神のいのちから切り離された。われらの魂は麻痺している。ちょうどあの不具の男がひとりでは歩くことができなかつたように、われわれもひとりではきよい生活を送ることができない。自分の無力をみとめている人、また神に一致するような霊的生活をあこがれ求めている人が多い。」(各時代の希望上巻 245)

- c. このような状態に対する唯一の治療法は何ですか(使徒行伝 9:34)。

「救い主は、ご自分の血であがなわれた者をのぞきこんで、言い表わしようのないやさしさとあわれみとをもって、『なおりたいのか』と言われる。主はあなたに、健康と平安のうちに立ちあがりなさいとお命じになる。いやされたと感じるのを待つてはならない。キリストのみことばを信じなさい。そうすればみことばは実現する。あなたの意思をキリストの側におきなさい。キリストに任せようと決心なさい。そうすれば、みことばを行なうことによって、あなたは力を受ける。どんなに悪い習慣であろうと、長い間の放縦によって魂と肉体とをしぼりつけてきた支配的な情欲から、キリストはわれわれを救うことができになり、また救おうと望んでおられる。彼は『自分の罪過と罪とによって死んでいた者』にいのちをお与えになる(エペソ 2:1)。キリストは、弱さと不幸と罪の鎖につながれているとりこを解放される。」(同上 246)

- a. キリストはわたしたちが打ち勝つことができるようにどのように助けて下さいますか（エペソ人への手紙 2:1-6）。

「人は生来サタンの暗示に従う傾向があり、偉大な征服者であられるキリストが彼の内に宿っていて下さり、彼の望みを導き、力をお与えにならない限り、これほど恐ろしい敵に首尾よく抵抗することはできない。…サタンは神の民よりも、彼らがキリストの内にいる時に彼らがどのぐらい力強いかを知っている。彼らが謙遜に偉大な征服者に助けを懇願する時、真理を信じる最も弱い者でも、キリストにしっかりと信頼することで、サタンとその全軍勢を首尾よく撃退することができる。」（教会への証 1 巻 341）

「わたしたちはキリストについて学ばなければならない。わたしたちはこのお方が贖って下さった者たちにとってどのようなお方であるかを知らなければならない。わたしたちはこのお方への信仰を通して世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となることができる特権を認識しなければならない。そうすればわたしたちはすべての罪、すべての品性の欠陥から清められる。わたしたちは一つの罪深い性癖でも持ち続けている必要はない。

わたしたちが神の性質にあずかる時、遺伝や培われてきた誤った傾向は品性から切り離され、善のための生きた力となる。常に神聖な教師について学び、日々そのご性質にあずかり、サタンの誘惑に打ち勝つことにおいて、神と協力するのである。神が働かれ、人が働くのはキリストが神と一つであられるように、人もキリストと一つとなるためである。そうすればわたしたちはキリストと共に天の座に着くことができる。こうして心はイエスにあって平安と確信をもって安らぐことができる。」（ビュー・アード・ハルト 1900 年 4 月 24 日）

- b. キリストの力によってもたらされる平安を述べなさい（ローマ人への手紙 8:3-6）。

「子供はみな、父親の生命によって生きる。あなたがたは、神のこどもであって、その聖霊によって生まれたのであれば、神の生命によって生きる。キリストには、『満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿って』いる（コロサイ 2:9）。そしてイエスの生命は『わたしたちの死ぬべき肉体に』現わされる（コリント II 4:11）。あなたの中にあるこの生命が、イエスに生み出したのと同じ品性を生み出し、イエスに現わしたのと同じわざを現わす。こうしてあなたは主の律法のすべての戒めに調和するようになる。『主のおきては、完全であって魂をいきかえらせ』るからである（詩篇 19:7）。愛を通して『律法の要求が、肉によらず霊によって歩くわたしたちにおいて、満たされる』のである。（ローマ 8:4）。」（祝福の山 95, 96）

- a. 中風患者に与えられた祝福を無視して、なぜパリサイ人たちは苛立ったのでしょうか(ヨハネによる福音書 5:9 (下句), 10)。

「[回復した中風患者]が神を賛美し、新しく与えられた力をよろこびながら、しっかりと自由な足どりで道を急いでいると、数人のパリサイ人に出会ったので、彼はすぐに自分がいやされたことを彼らに語った。彼は、パリサイ人たちが自分の話を冷淡に聞くのを見て驚いた。

パリサイ人たちはまゆをしかめて彼をとどめ、なぜ安息日に寝床を運んでいるのかと聞いた。彼らは、主の日に荷物を運ぶことは律法にかなわないことだときびしく注意した。男は、よろこびのあまり、安息日であることを忘れていた。それでも彼は、神からのこのような力をもっておられるおかたの命令に従っていることに、心のがめを感じなかった。彼は『わたしをなおして下さったかたが、床を取りあげて歩くと、わたしに言われました』と大胆に答えた(ヨハネ 5:11)。彼らはそんなことをしたのはだれだとたずねたが、男は答えることができなかった。この役人たちは、この奇跡を行うことができるおかたはひとりしかないことをよく知っていた。だが彼らは、イエスを、安息日を犯した者として、非難するためには、それがイエスであったという直接の証拠がほしかった。彼らの判断によれば、イエスは、安息日に病人をいやして、律法を破られたばかりでなく、その男に寝床を運ぶように命ずることによって、安息日の神聖をけがしたというのであった。」(各時代の希望上巻 246, 247)

- b. ユダヤ人は安息日をどのように考えていましたか(マタイによる福音書 23:4)。

「ユダヤ人は律法を曲解して、これを束縛のきずなとしていた。彼らの無意味な規則は、他国民の語り草になっていた。特に安息日はあらゆる種類の無意味な制限にとりこまれていた。安息日は、彼らにとって、喜びの日でもなければ、主の聖日でもなく、とうとぶべき日でもなかった(イザヤ書 58:13 参照)。律法学者やパリサイ人たちが安息日の遵守を耐えがたいほどの重荷にしていた。ユダヤ人は、安息日に火を燃やすことも、ろうそくをつけることも許されなかった。その結果、ユダヤ人は、規則に禁じられているために自分にはできない多くの仕事を異邦人にたのんでやってもらった。仕事をするのが罪になるものなら、他人をやとってその仕事をやらせることも、自分がやったのと同じに罪になるということを、彼らは考えてもみなかった。彼らは、救いはユダヤ人にだけ限られたものであって、他のすべての人の状態はすでに絶望的なものだから、それ以上悪くなりようがないと考えていた。しかし神は、誰かが従うことのできないような戒めをお与えになってはいない。神の律法は、不合理な制限や利己的な制限を是認しない。」(同上 247, 248)

- a. イエスは神の律法に対して、また安息日に対して、どのような関係にありましたか（イザヤ書 42:21）。

「イエスは、律法を『大いなるものとし、かつ栄光あるものとする』ためにおいでになっていた。彼は律法の尊厳を低くしないで高められるのであった…イエスは、安息日を祝福ではなくてわざわざにしていたやっかいな規則から解放するために、おいでになったのである。」（各時代の希望上巻 250）

- b. 安息日に何をすべきであり、また何をすべきではありませんか（出エジプト記 20:8-11）。

「イエスは、池のそばの病人たちの中から、最悪の病人を選んで、その者の上にはやしの力を働かせ、そのなされた偉大なわざを公表するために町の中を寝床を運んで行くようにその男にお命じになった。このことによって、安息日に何をすることが律法にかなっているかということについて質問がおり、イエスが主の日に関するユダヤ人の束縛を攻撃され、彼らの言い伝え無効であることを言明される道が開かれるのであった。

イエスは、苦しんでいる者を救う行為は、安息日の律法にかなっていると彼らにお述べになった。それは、苦しんでいる人間に奉仕するためにいつも天と地との間をのぼりくだりしている神の天使たちの働きに一致していた…

人間にもまた、この日になすべき働きがある。生活上の必要に備え、病人を世話し、困っている人々の欠乏を満たさなければならない。安息日に、苦しみをやわらげることをおこたる者は罪をまぬかれない。神の聖なる休みの日は、人のためにつくられたもので、あわれみの行為は、安息日の意図に完全に一致している。神はご自分の被造物が安息日でも他の日でも、苦しみをやわらげられるものなら、一時間でも苦しむことをお望みにならない。」（同上 251, 252）

個人的な復習問題

1. ベテスダの池について広く信じられていることは何でしたか。
2. キリストの注意を引いた特別な状況は何でしたか。
3. わたしたちの霊的な麻痺はどのように癒されるのでしょうか。
4. ユダヤ人は奇跡的な癒しについて何が非常に腹立たしかったのでしょうか。
5. 安息日の戒めと調和しているのはどのような働きでしょうか。

子の権威

暗唱聖句：「それは、父がご自分のうちに生命をお持ちになっていると同様に、子にもまた、自分のうちに生命を持つことをお許しになったからである。そして子は人の子であるから、子にさばきを行う権威をお与えになった。」(ヨハネによる福音書 5:26, 27)

推奨文献： 祝福の山 153-160

「あなたがたが非難している働きをなす権威がわたしにあるのは、わたしが神の子であり、性質においても、意思においても、目的においても、神と一つであるからだ、イエスは言われた。創造と摂理におけるすべての神の働きに、わたしは神と協力しているのだ。」(各時代の希望上巻 254)

I. 神と等しい

日/3月16日

a. 安息日に中風患者を癒されたことの他に、ユダヤ人がイエスを憎んだ理由は何でしたか(ヨハネによる福音書 5:17, 18)。

「イエスは神と等しい権利を主張された…

ユダヤ国民はみな、神を父と呼んでいたのだから、キリストが神に対して同じ関係にあるといわれても、そんなに怒る理由はなかった。しかし彼らは、キリストのこの主張が、最高の意味においてなされたものと判断されると言って、キリストを冒涇だと非難した。」(各時代の希望上巻 253)

b. キリストは人間の伝統を超えた神の戒めの権威をどのように証明なさいましたか(マタイによる福音書 15:1-9, 13)。

「このようなキリストの敵どもは、キリストが彼らの良心に感じさせられる真理に議論をもって対抗することができなかった。彼らは自分たちの慣習や言い伝えをひき合いに出すことしかできなかった。だがそうした者は、イエスが神のみことばと休むことのない自然の営みから引用される議論にくらべたときに、無力で、間の抜けたもののように思えた。」(同上 253, 254)

- a. どのようにイエスは御父とご自分との関係を説明なさいましたか (ヨハネによる福音書 5:19, 20)。
- b. キリストは御父に属するどのような権威と権力をご自分も持っておられると宣言なさいましたか (ヨハネによる福音書 5:21-23)。

「祭司たちと役人たちは、自らをキリストのみわざに罪を宣告する裁判官の立場に置いていたが、キリストは、ご自身が彼らのさばき主であり、また全地のさばき主であると宣言された。世はキリストにまかされ、キリストを通して、神からのすべての祝福が墮落した人類に与えられた。キリストは受肉の後と同じように、受肉の前にもあがない主であられた。罪が生じると同時に、救い主がおられた。彼はすべての者に光といのちをお与えにな

ったので、各人は、与えられた光の量に従ってさばかれる。光をお与えになったおかた、最もやさしい懇願をもって魂を追いかけ、その魂を罪から聖潔へみちびこうとされたおかたが、魂の助け主であると同時にまたさばき主である。」(各時代の希望上巻 257, 258)

- c. キリストがわたしたちのさばき主であられることを認識した時に起こる態度の変化について述べなさい (ローマ人への手紙 2:1-3; マタイによる福音書 7:1)。

「批判的精神をほしいままにする者は、彼が非難している相手よりも、もっと大きな罪を犯しているのである。なぜなら、彼は同じ罪を犯すばかりでなく、さらに高慢とあらさがしの罪を犯しているからである。

キリストが品性のただ一つの、真の標準である。自分を他の人々の標準とする者は、キリストの位置に自己を置いているのである。また、父は『さばきのことはすべて、子にゆだねられた』のであるから (ヨハネ 5:22)、他の人の動機をさばくようなことをする者は、神のみ子の大権奪っていることになるのである。これらのひとりよがりの裁判官や批評家は、『すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して立ち上り、自ら神の宮に座して、自分は神だと宣言する』反キリストの側に立っているのである (テサロニケ第二 2:4)。(祝福の山 156, 157)

「わたしたちは人の心を読むことはできない。わたしたち自身、不完全な者であって、さばきの座に着く資格はない。有限な人間は、外から見たところによってさばき得るだけである。行為のかくれた動機を知り、優しく同情をもって処置なさる神にのみ、すべての人間の問題の決定がゆだねられている。」(同上 154, 155)

- a. キリストにあってすべての献身した信者に与えられている保証は何ですか（ヨハネによる福音書 5:24）。

「神のことばの中にあるすべての命令とすべての約束には、力、すなわち、神の命そのものが宿っている。それであるから、命令はなしとげられ、約束は果たされる。信仰によって、ことばをうけいれる者は、神の命と品性そのものを受けているのである。」（キリストの実物教訓 15）

「悪に染まり、汚れた罪人のためになされる偉大な働きこそ、義認の働きである。真理を語られるお方によって彼は義であると宣言される。主は信じる者にキリストの義をお与えになり、宇宙の前で彼を義であると宣言なさる。このお方は自分の罪を罪びとの代理人であり、身代わり、また保証人であられるイエスに移す。キリストの上に、このお方は信じるすべての魂の不義を置かれる。『神はわたしたちの罪のために、罪を知らない方を罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあって神の義となるためなのである』（コリント第二 5:21）。…

罪人であるわたしたちは律法の有罪宣告の下にいるが、キリストは律法に対して捧げたご自分の従順によって、悔い改めた魂のためにご自身の義の功績を主張なさる。キリストの義を得るために、罪人は心と精神と行動に根本的な変化をもたらす悔い改めがなんであるかを知る必要がある。変化の働きは心から始まり、存在のあらゆる能力を通じてその力を表さなければならない。しかし人にはこのような悔い改めを得る力はなく、天上に上り、囚われ人を解放し、人々に賜物を分け与えて下さったキリストによってのみ、このような悔い改めを経験することができるのである。」（セクレット・メッセージ 1 巻 392, 393）

- b. キリストはどのような神聖な特権を持っておられることを明らかになさいましたか（ヨハネによる福音書 5:25-29）。

「キリストは、人間のあらゆる苦悩と試みとを経験し、人の弱さと罪とを理解されるので、また主はわれわれのためにサタンの試みに抵抗して勝利し、救うためにご自身の血を流された魂を正しく、やさしくとり扱われるので、このゆえに、人の子イエスは、さばきを行うように任命されているのである。」（各時代の希望上巻 258）

「キリストはすべての被造物に命を与えるために力をまもっておられる。」（セクレット・メッセージ 1 巻 249）

- a. イエスはユダヤ人の不信仰の原因をどのように説明なさいましたか (ヨハネによる福音書 5:37, 38)。

「イエスは、彼らが文句をつけている行為について、弁解したり、どういう目的でそのようなことをしたかを説明したりなさらず、役人たちに向き直って、被告から告発者になられた。イエスは彼らの無慈悲な心と聖書についての無知とを責められた。彼らは、神からつかわされたおかたをこぼんだのだから、神のみことばをこぼんだことになるのだと、イエスは断言された。」(各時代の希望上巻 259, 260)

- b. なぜユダヤ人は聖書を理解することに失敗したのですか (ヨハネによる福音書 5:39, 40)。

「旧約聖書は、歴史であろうと、それが神の制度であるかぎり、福音のぎっしりつまった預言であった。キリストについて『預言者たちもみな…あかしをしています』と言われている(使徒行伝 10:43)。アダムに与えられた約束から、父祖の家系と律法とを通じて、天の輝かしい光はあがない主の足跡を明らかにした。預言者たちは、未来の事柄が神秘的な行列をなして目の前を通り過ぎたときに、ベツレヘムの星、きたるべきシロをみた。すべてのいけにえにキリストの死が示された。香煙の一すじ一すじにキリストの義がのぼった。ヨベルのラツパの鳴るたびにキリストのみ名がひびき渡った。至聖所のおそれ多い神秘の中に、キリストの栄光がとどまっていた。

ユダヤ人たちは聖書を所有してみことばを外面的に知ることだけで永遠のいのちが与えられると思っていた。しかしイエスは、『神の御言(みことば)はあなたがたのうちにとどまっていない』といわれた。彼らはみことばの中のキリストをこぼんだので、人となられたキリストをこぼんだ。『あなたがたは、命を得るためにわたしのもとにこようもしない』とイエスは言われた(ヨハネ 5:38, 40)。

ユダヤ人の指導者たちは、メシヤの王国に関する預言者たちの教えを学んでいたが、それは真理を知ろうとする真剣な願いからではなく、彼らの野心的な望みを支持する証拠をさがし出すのが目的だった。キリストが彼らの期待に反する様子でこられたとき、彼らは、キリストを受け入れようとしなかった。そして彼らは、自分自身を正当づけるために、キリストが欺瞞者であることを証拠だてようとした。彼らがこの道にひとたび足を踏み入れたとき、サタンがキリストに対する彼らの反対を強めることは容易だった。キリストの神聖の証拠として受けとられるはずのことばが、キリストに不利なように解釈された。こうして彼らは、神の真理を虚偽に変え…た(同上 260, 261)

- a. なぜユダヤ人はイエスを拒み、偽りの教師を求めるように導かれたのでしょうか(ヨハネによる福音書 5:41-44)。

「イエスは、『わたしは人からの誉を受けることはしない』と言われた。イエスがお望みになったのは、サンヒドリンの権力でもなければ、サンヒドリンからみとめられることでもなかった。イエスがサンヒドリンからは認されたとしても、イエスにとっては誉とならなかった。イエスは天の神の誉と権威とをさずかっておられた。イエスがお望みになれば、天使たちがやってきて尊敬をささげ、天父はもう一度イエスの神性を証明されたであろう。だがユダヤ人の指導者たち自身のために、また彼らが指導している国民のために、イエスは、彼らがイエスの品性をみとめ、イエスが彼らに与えるためにおいでになったその祝福を彼らが受けることを望まれた。

『わたしは父の名によってきたのに、あなたがたはわたしを受けいれない。もし、ほかの人が彼自身の名によって来るならば、その人を受けいれるであろう』。イエスは、神のみかたちをそなえ、神のみことばを成就し、神のみ栄えを求め、神の権威によっておいでになった。それでもイエスは、イスラエルの指導者たちから受けいれられなかった。しかしほかの人たちがキリストの品性をよそおいながら、自分自身の意思にもとづいて行動し、自分自身の栄えを求めてやってくるなら、彼らは受け入れられるであろう。それはなぜだろうか。自分自身の栄えを求める者は、ほかの人たちのうちにある高慢心に訴えるからである。このような訴えならば、ユダヤ人はこれに応ずることができるのである。偽りの教師は、ユダヤ人の宿望や言い伝えを是認することによって、彼らの誇りにへつらうので、彼らはそうしたにせ教師を受け入れるのである。だがキリストの教えは、彼らの考えに一致しなかった。キリストの教えは、霊的で、自我を犠牲にすることを要求した。そのため彼らは、キリストの教えを受け入れようとしなかった。彼らは、神を親しく知っていなかったので、キリストを通して語られる神のみ声は、彼らにとって見知らぬ人の声であった。

わたしたちの時代にも同じことが繰り返されていないであろうか。多くの者たちは、宗教指導者たちでさえ、聖霊に対して自分の心をかたくなにし、神のみ声を認識できなくてはならないだろうか。彼らは自分自身の伝統を守るために、神のみ言葉を拒んではないだろうか。」(各時代の希望上巻 261, 262)

個人的な復習問題

金/3月21日

1. キリストはどのような権威と権利を主張なさいましたか。
2. イエスと御父との間には常にどのような関係が存在していましたか。
3. キリストは命をお与えになるどのような御力を持っておられますか。
4. ヨハネによる福音書 5:39 を説明しなさい。
5. ユダヤ人国民がメシヤとしてのイエスを拒んだ結果を述べなさい。

イエスが群衆を養う

暗唱聖句：「するとイエスは言われた、『彼らが出かけて行くには及ばない。あなたがたの手で食物をやりなさい』。(マタイによる福音書 14:16)

推奨文献： 教会への証 6巻 341-348

「自分の持っているものを全部ささげたくないのと、他人のために費したり費されたりするのを恐れるために、われわれはしばしばちゅうちょする。しかしイエスは、『あなたがたの手で食物をやりなさい』とわれわれにお命じになった(マルコ 6:37)。キリストの命令は約束である。その約束の背後には、海辺で群衆を養われたのと同じ力がある。」(各時代の希望中巻 111)〔著者強調〕

1. 飢えている魂

日/3月23日

a. イエスが過越の祭の前にガリラヤ湖を渡られた時、弟子たちの他にだれが同行しましたか(ヨハネによる福音書 6:1, 2)。

「キリストは弟子たちといっしょに人里離れた場所へしりぞかれたが、このめつたにない平和と静けさのひとときは、まもなく破られた。弟子たちは、人々に邪魔されないところへひっこんだと思った。だが群衆は、天来の教師イエスの姿がみえなくなったとたんに、『イエスはどこにおられるのか』とたずねた。彼らの中には、キリストが弟子たちといっしょに行かれた方向に気づいていた者たちがいた。イエスと弟子たちに会うために、多く

の者は陸づたいに、またある者たちは舟で湖を渡って追いかけた。過越節が近づいていたので、エルサレムに行く途中の巡礼者たちの団体が、イエスを見るために遠近から集まった。人々の数は増し加わって、ついに女子供のほかに五千人が集まった。キリストが岸にお着きになる前に、群衆がイエスを待っていた。しかしイエスは、彼らに見られないように上陸して、弟子たちといっしょに人々を離れてしばらくの時間をすごされた。」(各時代の希望中巻 103)

b. 集まった人々の霊的状态について述べなさい(マルコによる福音書 6:34)。

- a. どのようにイエスは人々が必要としているものを優しく認識なさいましたか。またご自分の弟子のピリポの信仰を試すために、どのようにこの機会をお用いになりましたか(ヨハネによる福音書 6:3-6)。

「山の中腹から、イエスは、動いている群衆をごらんになった。するとイエスの心は、同情に動かされた。邪魔をされ、休息を奪われても、イエスは短気を起されなかった。イエスは、人々がぞくぞくとやってくるのをごらんになったとき、彼らの世話をすることがもっと必要であることに気がつかれた。イエスは、『飼う者のない羊のようなその有様を深くあわれ』まれた。イエスは、かくれ場所を出て、人々に奉仕するのに都合のよい場所をみつけられた。人々は、祭司たちと役人たちからは何の助けも受けなかった。しかしキリストが群衆に救いの道をお教えになったとき、いやしを与えるいのちの水がキリストから流れ出た…

その日は彼らにとって地上の天国のように思われ、彼らは、もう何時間もものを食べていないことなどまったく念頭になかった。

ついにその日もほとんど過ぎ去った。太陽は西に沈みかけていたが、まだ人々は立ち去りかねていた。イエスは、終日、食事も休息もとらずに働かれた。イエスが疲れと空腹で青い顔をしておられたので、弟子たちは働きをやめてくださいとたのんだ。しかしイエスは、まわりにつめかけている群衆から退くことがおできにならなかった。…

人々に平和と幸福とを手に入れる方法をお教えになったイエスは、彼らの霊的必要と同じに、物質的必要も思いやられた。人々は疲れ、弱っていた。腕に赤ん坊をかかえ、すそにまつわりつく小さな子供をつれた母親たちもいた。多くの者は何時間も立ちつづけていた。……

多くの者は、遠くからきていて、朝から何も食べていなかった。彼らはまわりの町や村で食物を買うことができるかもしれない。……しかしイエスは、『あなたがたの手で食物をやりなさい』と言われ、ピリポをふり向いて、『どこからパンを買ってきて、この人々に食べさせようか』とおたずねになった。イエスがこう言われたのは、この弟子の信仰をためすためであった。』(各時代の希望中巻 103-105)

- b. ピリポの反応はどうでしたか(ヨハネによる福音書 6:7)。

「ピリポは人の波を見わたして、これほどの群衆の欲求を満足させるだけの食物を準備することは不可能だと思った。彼は、二百デナリのパンを買っても人人にくばるほど十分ではなく、たとえくばってみてもごく僅かずつしかないでしょうと答えた。」(同上 105)

- a. アンデレがどのような情報をイエスにもたしましたか、そして主は弟子たちに何をできるように指示されましたか(ヨハネによる福音書 6:8-10)。

「イエスは、弟子たちの中にどれほどの食物があるかとおたずねになった。するとアンデレが、『ここに、大麦のパン五つと、さかな二ひきとを持っている子供がいます。しかし、こんなに大ぜいの人では、それが何になりましょう』と言った。イエスは、それを持ってくるようにお命じになった。それからイエスは、弟子たちに、人々の秩序を保つためと、イエスがしようとしておられることがみんなに見えるように、五十人か百人ずつの組にして草の上にするわらせるようにお命じになった。』(各時代の希望中巻 105)

- b. キリストが食物を増やすのにとられた段階を説明しなさい、またわたしたちはこのことからどのような教訓を学ぶことができますか(マタイによる福音書 14:19; マルコによる福音書 6:37-41; ヨハネによる福音書 6:11)。

「イエスはぜいたくを求める人々の欲望を満たして、ご自分に人々をひきつけようとはなさらなかった。興奮の長い一日がすぎた後に、疲労し飢えた大群衆にとって単純な食物は、生活上の一般必要を満たしてくださる神のみ力とそのやさしい保護の確証であった。救い主は彼に従う者にこの世でぜいたくな生活をさせてやるとは約束なさらなかった。かえって貧困にかこまれるかも知れないのである。しかしその必要はみたと、キリストのみ言葉は保証している。また、この世のものよりもよい彼ご自身の臨在によって、永続性のあるなぐさめを約束してくださるのである。』(ミストリー・オブ・ヒーリング 25, 26)

「この奇跡において、キリストは、父から受けて弟子たちに与え、弟子たちは人々に人々は互に分け与えた。そのようにキリストと結合するすべてのものは、生命のパンをキリストから受け、他の人々に与えるのである。キリストの弟子は、キリストと人々をつなぐために任命された器である。』(同上 27)

- c. わたしたちはここで真の伝道についてどのような教訓を思い起こさせられますか(イザヤ書 61:6)。

「弟子たちはあるだけのものをイエスの所に持ってきたが、キリストは、それを食べなさいとは仰せにならなかった。人々に供するように弟子たちにお命じになったのである。食物はキリストのみ手の中で増し加わり、キリストに差し出された弟子たちの手は必ず満たされた。わずかな食物がすべての人に十分に足りたのである。群衆に食を与えて後、神の備えてくださったとうい食物を弟子たちはイエスと共にいただいた。』(同上 27)

- a. イエスが群衆に食物をお与えになった後でなされた重要な指示から、わたしたちは何を学ぶことができますか (ヨハネによる福音書 6:12, 13)。

「食べくずのかごが集められた時、人々は家にいる友人たちのことを心に思った。彼らはキリストが祝福されたパンを友人たちに分け与えたいと望んだ。かごの中味はそうした熱心な群衆にくばられて、まわりのすべての地方にはこぼれて行った。」(各時代の希望上巻 109)

「イエスは弟子に『すこしでもむだにならないように、パンくずのあまりを集めなさい』と命じられたが、これらのお言葉はかごに食物を入れること以上に意義を持っていた。その教訓は二重である。何一つむだにしてはならないのである。われわれはこの世の利点をのがしてはならない。人間に益となるようなことは何でもおろそかにしてはならないのである。世の飢えた人々の必要を満たすようなものは、すべて集めなさい。また同様な注意深さで、わたしたちは、心の要求を満たすために天からの食物を大切にしなければならない。わたしたちは神のすべてのみ言葉によって生きなければならないのである。神が仰せになった事は何一つ失ってはならない。わたしたちの永遠の救いに関する一つのみ言葉でも、おろそかにすべきではない。一言もむなしく地に落ちてはならないのである。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 27)

- b. たとえそれが不都合で不可能に見えたとしても、わたしたちはどのクリスチャンの資質を培うように命じられていますか (イザヤ書 58:6-8; ペテロの第一の手紙 4:9)。

「あらゆる危機に当って、わたしたちは無限の資源を支配される神に助けを求めべきである。……

我々は貧しい人や無知な苦しむ人々を見ては幾度落胆するだろう。そうして自分たちの弱い力と乏しい資源がこのひどい欠乏を満たすのに何になろうと思うのである。もっと才能のある人が働きを指導するのを待とうか。あるいはまたある組織によってこの働きがなされるのを待とうか。しかしキリストは彼らに『あなたがたの手で、食物をやりなさい』と仰せになる。物資、時間、才能を使用なさい。あなたの大麦のパンをイエスの所に持って行きなさい。

あなたの資源は幾千人の人を養うに足りなくても、ひとりを養うに足りるかも知れない。そしてキリストのみ手の中で、それは多くの人々を養うかも知れないのである。弟子たちのように自分にあるものをささげなさい。キリストは、その贈り物を増し加えてくださる。率直に、単純に信頼するとき、彼はこれにむくいられるのである。そうして乏しく見えた食物も豊かなご馳走となる。」(同上 27, 28 [著者強調])

- a. わたしたちが決して忘れてはならない神の素晴らしい特質は何ですか（詩篇 37:25, 26; ペリピ人への手紙 4:19）。

「少量のものの上に注がれる神の恵みが、それを満ち足りたものにする。神のみ手はそれを百倍に増すことができる。神はその資源の中から、荒野において食事の用意をすることがおできである。神はみ手を触れて、わずかの食物を増加させて、すべての者を満ち足らせられるのである。預言者のともがらの手の中でパンと穀物とを増し加えたのは、神の力であった。…

イエスが弟子たちに、群衆に食べさせるようにお命じになったときに、彼らは、『わたしたちにはパン五つと魚二ひきしかありません、この大ぜいの人のために食物を買いに行くしなければ』と言った（ルカ 9:13）。こんなに多くの人々のなかで、これが何になるうか。

これは各時代の神の民のための教訓である。主がなすべき働きをお与えになるときに、その命令が道理にかなったものであるか、または、従おうと努力すれば、どんな結果が生じるかなどを、人間は問うてはならない。手もとにあるものは、満たすべき必要のためには、十分でないかもしれない。しかし、主の手の中にあればあり余ったものとなるのである。…

神がみ子という賜物によって買い取られた人々に対する神の関係をもっと深く悟り、この地上における神の働きの前進に対して、もっと大きな信仰を持つことが、今日、教会の大きな必要である。だれひとりとして目に見える資源の乏しさを嘆いて、時間を浪費してはならない。外見は有望ではないかもしれないが、活動と神に対する信頼は、資源をつくり出すのである。神は感謝と祝福を祈り求めつつ神に献げるものを預言者のともがらや疲れた群衆に与えられた食物を増し加えられたように増し加えてくださるのである。」（国と指導者上巻 209-211）

個人的な復習問題

金/3月28日

1. キリストの言葉に耳を傾ける人々の態度を述べなさい。
2. どのように主は彼らの身体的な必要をお供えになりましたか。
3. キリストが大群衆を秩序正しく保たれた方法からわたしたちは何を学ぶことができますか。
4. 「あなたがたの手で食物をやりなさい」と指示される時はいつでも、わたしたちは何を覚えているべきでしょうか。
5. あなたに対する神のみ摂理が特に顕著だった時を挙げなさい。

第一安息日献金



安息日1月4日

パラグアイの多目的健康教育センター
皆さんの惜しめない捧げ物は多くの人の健康と信仰をよみがえらせます(4ページ参照)

安息日2月1日

世界災害救済

この献金は災害、疫病、死、困難な状況によって損害を受けた地域にいる個人に援助を提供します(25ページ参照)



安息日3月1日

「品性をもつ子ども」ルーマニアにおける教育センター
ルーマニアの若い子供たちのための新しい初等教育施設を完成のために支援してください(46ページ参照)